

びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした
大学・短期大学・地域連携プラットフォーム

中長期計画

2019 年度～2024 年度

2019 年 4 月 制定

2020 年 10 月 改訂

目次

基本理念、計画の特徴、計画実施期間、将来像

計画の概要図及び組織体制図

1. 計画策定の趣旨及び構成組織
 - (1) 計画策定の趣旨
 - (2) 構成組織
2. 滋賀県 びわ湖東北部地域の現状分析
 - (1) 基本データ
 - (2) 滋賀県 びわ湖東北部地域の将来推計及び課題
 - (3) 地方自治体の総合戦略
3. 滋賀県 びわ湖東北部地域の大学・短期大学の現状分析
 - (1) 現状分析
 - (2) 滋賀県 びわ湖東北部地域の学術マップと特色
 - (3) 課題
4. 基本ビジョン及び実施計画
 - (1) 基本ビジョン
 - (2) SDGs の活用
 - (3) 数値目標の設定
 - (4) 事業内容及び具体的目標
5. 中長期計画のロードマップ

基本理念：“SDGs を活用した豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出”

現在、日本においては“まち・ひと・しごと創生”に代表されるように、地方の活性化が大きな課題となっています。少子高齢化が進む中、びわ湖東北部地域においても、地域社会を活性化し、豊かに働き生活できる住みよい魅力と活気のある地域社会を創出するという大きな課題への取組は避けて通ることができません。特に、大学にとりましては、これからの 18 歳人口の急速な減少により、各大学の理想とする教育・研究を行うことが難しくなるだけでなく、その存続自体も危ぶまれており、地域の皆様との協業を通じてこれに対応していくことが喫緊の課題となっています。

このような背景の中で、多くの皆様のご協力を得て、2018 年度より彦根・長浜地域内の大学と自治体および産業界が力を合わせてこれらの課題に取り組むためのプラットフォームを形成することになりました。さらに、事業開始当初から地域内の就職活動および採用支援活動を中心にご支援をいただいていた米原市が、2020 年度より本プラットフォームに加盟いただくこととなりました。これにより、職住学近接を生かし地域にお住いの皆様が日常的に行き来しているびわ湖東北部の 3 市（彦根市・米原市・長浜市）を、本プラットフォームの活動地域として発展的に拡大することができました。そこで、本プラットフォーム名称を 2020 年 9 月より、「彦根・長浜地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学・地域連携プラットフォーム」から「びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学・地域連携プラットフォーム」に新たにし、より広範な地域における連携事業を活発に行えることになりました。

このように本連携協議会の活動が充実できたことは、日頃より本趣旨をご理解の上、快く参画していただきました大学、自治体、経済産業界等の皆様のご支援の賜物です。改めて心から御礼申し上げます。

このプラットフォームの意義は、地域の発展に向けて、大学、短期大学、自治体、経済産業界等が、持続可能な開発目標である SDGs を活用し、力を合わせてそれぞれの得意分野で協働して取り組むことにあります。そして、その成果として有能な人材を養成し、地域で活躍してもらうことで豊かに働き生活できる、魅力と活気ある地域社会を創出することにあります。本プラットフォームではこの目的を達成するために必要な分野と課題および目標を取り上げ、2019 年度から 6 年間にわたる中長期計画を策定し Web 上で公表することにいたしました。今後とも、地域の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本プラットフォームの更なる充実・展開によりびわ湖東北部地域の魅力が増し、活気ある社会へさらなる進展が得られることを祈念して挨拶といたします。

びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした
大学・短期大学地域連携プラットフォーム
事業連携協議会長 蔡 晃植

計画の特徴

本プラットフォーム事業は、滋賀県内のびわ湖東北部地域という地域内において、産官学が連携・協働することによって、両地域における課題の解決に向けて知力と人的資源を投入し、豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出に資することを目的とするものである。これまで本地域においては、自治体・経済産業界等と個々の大学・短期大学との間で様々な連携・協働が試みられ、一定の成果を上げてきた。本事業ではこれまでの自治体・経済産業界等と個々の大学・短期大学の連携・協働をより発展させるために、社会の持続可能な開発目標である SDGs を活用することで、これまで以上に自治体や経済産業界等との緊密な協働と情報共有のもと、各校の特徴と強みを発揮し、総合的かつ多面的な取組を展開しようとするところに大きな特徴がある。

計画実施期間

本計画は、びわ湖東北部地域における大学、短期大学、各自治体、経済産業界等で構成されるプラットフォーム形成を通じて大学改革を推進するとともに、地域における知の基盤としての役割を果たし、特徴や強みを踏まえた地域貢献や地域社会で活躍する人材の育成及び豊かな地域社会の構築に産官学が連携して戦略的に取り組むものである。地域内における高等教育の充実・発展の方向性を包括的に示す中長期計画として、計画期間を 2019 年度から 2024 年度までの 6 年間と設定する。

将来像

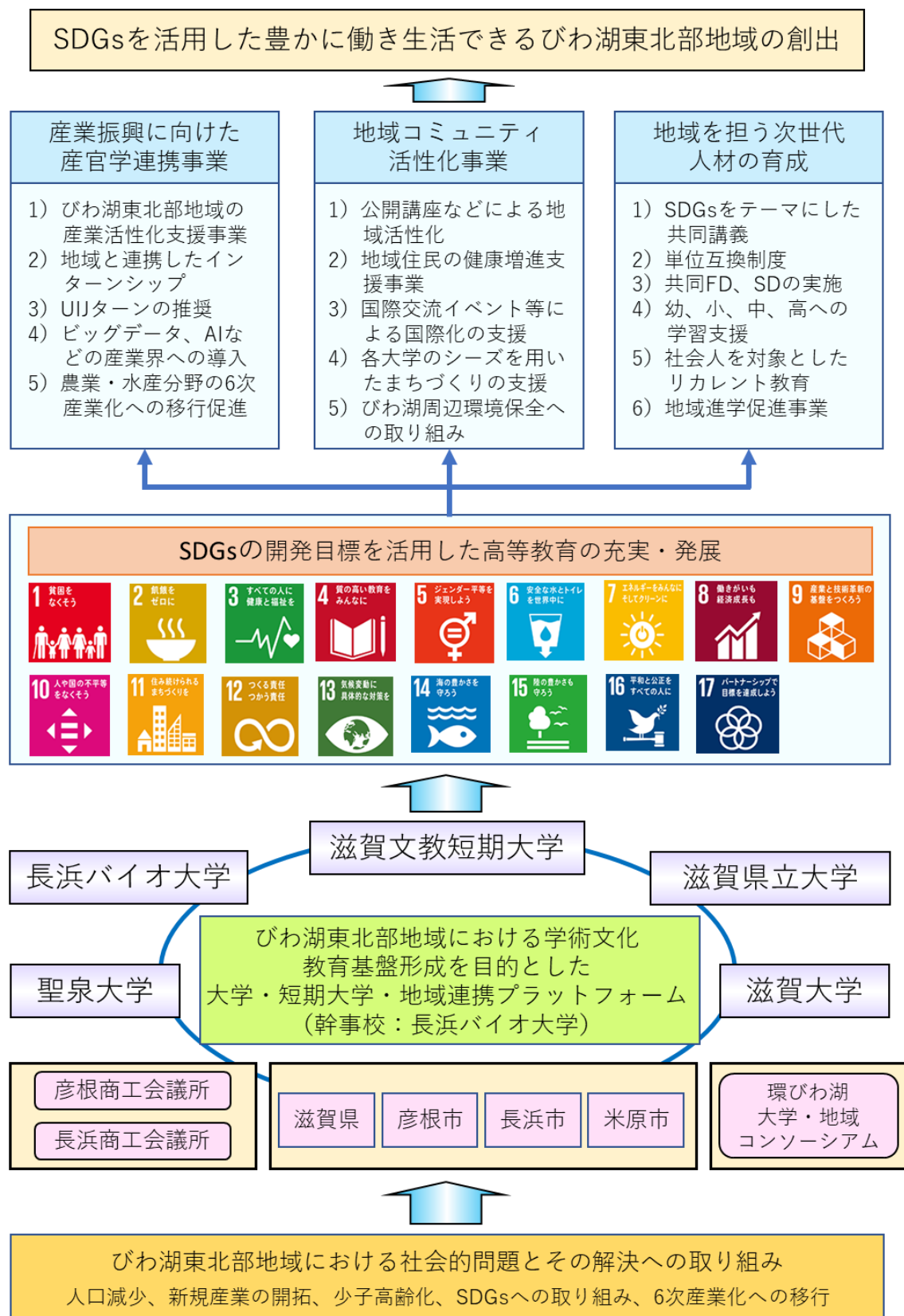
本プラットフォーム事業は以下の 4 つの将来像を中長期計画の根幹に置き、SDGs を活用することで、豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出を目指すものである。

- 自治体・地域経済界に開かれた高等教育環境のある地域
- 誰もが安心・安全に住み続けることができる地域
- 地域住民・観光客等を引き付ける地域資源のある地域
- 若年層が魅力を感じる豊かな産業基盤のある地域

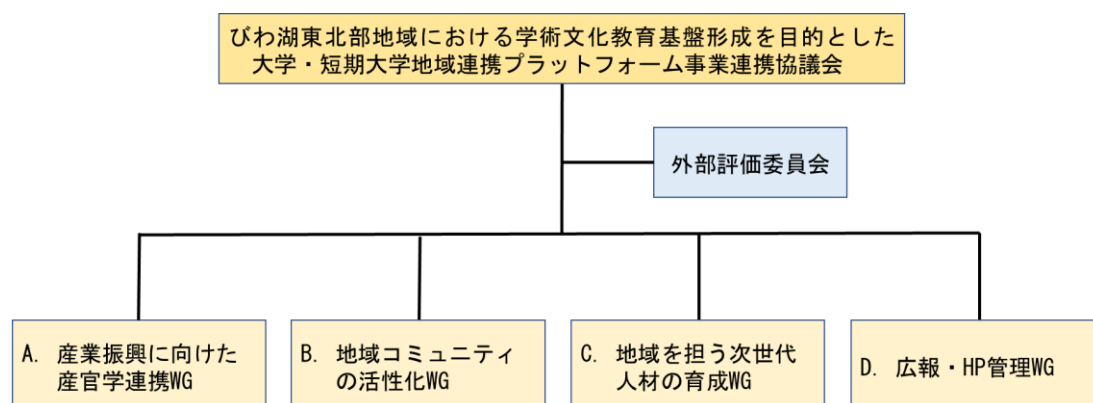
これらはそれぞれ別個の独立したものではなく、本プラットフォーム事業が設定する課題分野の個々の取組が総合的かつ有機的に連携することで実現される将来像である。

上述のような特徴、実施期間、将来像を内容とする本プラットフォーム事業の全体的な構想を図解したものが、以下の「びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学地域連携プラットフォーム計画概要図」であり、それに関わる「組織体制図」である。

計画の概要図



組織体制図



1. 計画策定の趣旨及び構成組織

(1) 計画策定の趣旨

地域の高等教育全体の活性化に係る中長期計画を作成し、大学改革を推進することで、地域における知の基盤としての大学等の役割を明確化し、地域内における大学等の特徴や強みを踏まえた特色化、機能強化、ガバナンス改革等を推進するためにびわ湖東北部地域の大学、短期大学、各自治体、経済産業界等で連携し、産官学連携のプラットフォームを構築する。本プラットフォームでは、豊かに働き生活できる地域社会を創出し、持続的発展が可能な地域とするため、SDGsを活用し、それぞれの大学等の資源の集中化や共有化、有効活用等の連携を行うための体制を整備することでびわ湖東北部地域における知的活動の拠点として機能し、地域社会との連携・交流を通じて持続可能な地域貢献を果たすと共に、大学・短期大学における教育研究の活性化と質向上に努める。

(2) 構成組織

本プラットフォームを構成する機関・団体は以下のとおりであるが、事業の進捗・展開状況により、変更する場合がある。

① 大学・短期大学

機関名	所在地 (住所は大学本部所在地)	備考
滋賀大学	滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号	
滋賀県立大学	滋賀県彦根市八坂町2500番地	
長浜バイオ大学	滋賀県長浜市田村町1266番地	幹事校
聖泉大学	滋賀県彦根市肥田町720番地	
滋賀文教短期大学	滋賀県長浜市田村町335番地	

② 地方自治体

機関名	所在地 (住所は県庁又は市庁所在地)	備考
滋賀県	滋賀県大津市京町 4 丁目 1 番 1 号	
彦根市	滋賀県彦根市元町 4 番 2 号	
長浜市	滋賀県長浜市八幡東町 632 番地	
米原市	滋賀県米原市下多良 3 丁目 3 番地	

③ 地域産業界等

機関名	所在地 (住所は事務局所在地)	備考
彦根商工会議所	滋賀県彦根市中央町 3 丁目 8 番地	
長浜商工会議所	滋賀県長浜市高田町 12 番地 34 号	

2. 滋賀県 びわ湖東北部地域の現状分析

(1) 基本データ

	滋賀県	彦根市	長浜市	米原市
面積	4017.4 km ²	196.8 km ²	680.8 km ²	250.4 km ²
人口	1,411,498 人	113,880 人	115,053 人	37,968 人
大学・短期大学数	14 校	3 校	2 校	0 校
人口構成	65 歳以上	26%	25%	28%
	15-64 歳	60%	61%	59%
	0-14 歳	14%	14%	13%

(出典:2019 年 4 月毎月人口推計調査より作成)

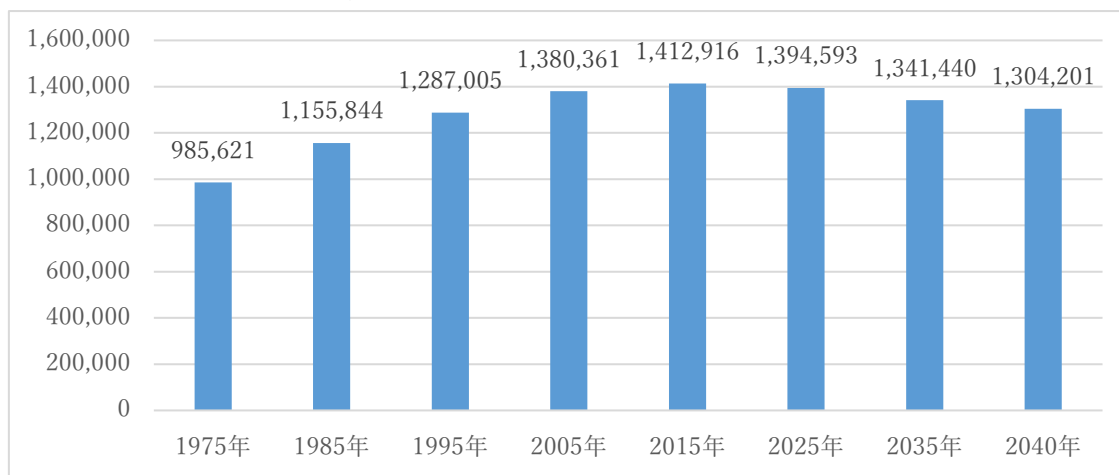
(2) 滋賀県 びわ湖東北部地域の将来推計及び課題

2015 年における人口の将来推計をもとに、滋賀県・彦根市・長浜市・米原市がそれぞれ作成した「人口ビジョン」を参考にすると以下のような状況が窺える。

滋賀県の人口は、2008 年には 140 万人を超えたものの、2014 年 10 月に前年比較において減少に転じると、その後は横ばい傾向が続き、長期的には人口減少局面に入ったと推測される(図 1)。

県全体の人口動向と同様に、彦根市・長浜市・米原市においても人口のピークが過ぎ、長期的には減少すると推測されている。そのため、彦根市・長浜市は、2060 年に人口 10 万人を維持するという目標を掲げている。また米原市は、滋賀県随一の交通社会資本を有するという強みを活用し、米原駅にまちの核をつくるとともに、JR 駅周辺地域への移住・定住の促進を図ることで人口を増加させる目標を掲げている。

図1 滋賀県の人口推計(単位：人)



(国立社会保障・人口問題研究所推計より作成)

また、県全体の年齢階級における人口移動では、20～24歳は転出超過であり、大学・短大等を卒業後に、県外に就職する者が多いことが背景にあると推察される。それ以外では幅広い年齢層で転入超過となっており、特に30歳代を中心とした子育て世代の転入超過が目立つ。しかし、近年は多くの年齢階級で転入超過数が減少傾向にある。25～29歳の年齢階級では、2011年頃までは、転入超過で推移していたが、2014年以降は、転出超過に転じるという状況にある。

年齢階級別での人口移動に関して、彦根市は、30代を中心とした子育て世代及び大学に入学する年代である18歳を含む年代の転入超過がある。一方、男性、女性ともに「15～19歳から20～24歳」になるときは転入超過、「20～24歳から25～29歳」になるときに大幅な転出超過となっており若者の地域外への流出が生じている。

長浜市では、「10～14歳から15～19歳」、「15～19歳から20～24歳」が大幅な転出超過となっており、高校卒業後の大学等進学または就職に伴う転出の影響が推測される。一方で「20～24歳から25～29歳」の転入超過の傾向が見られ、大学等卒業後の就職等に伴うUターンによるものと考えられる。しかし、「20～24歳から25～29歳」の転入超過の傾向は弱まり、転出超過に転換し始めている。

米原市では、20代の転出超過傾向が一貫して起こっており、特に「20～24歳」の転出が多くなっている。一方、転入超過とまではいかないものの、大学進学や就職等で米原市を出た若年層が男女ともに、20代後半以降に米原市に戻っている傾向も認められる。20代の転入出事由をみると、転入者の20代は「就職のため」、30代は「仕事の都合」が最も多く、20代では「結婚のため」も高い割合となっている。また、転出者の事由は、20代・30代とも「結婚のため」が最も多く、「ライフステージの転換点」を契機に市外へ転出するケースが大半を占めている。

このような現状から国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年の滋賀県の総人口は130.4万人とされ、2015年に比べて7.6%減少するとされている(表1)。

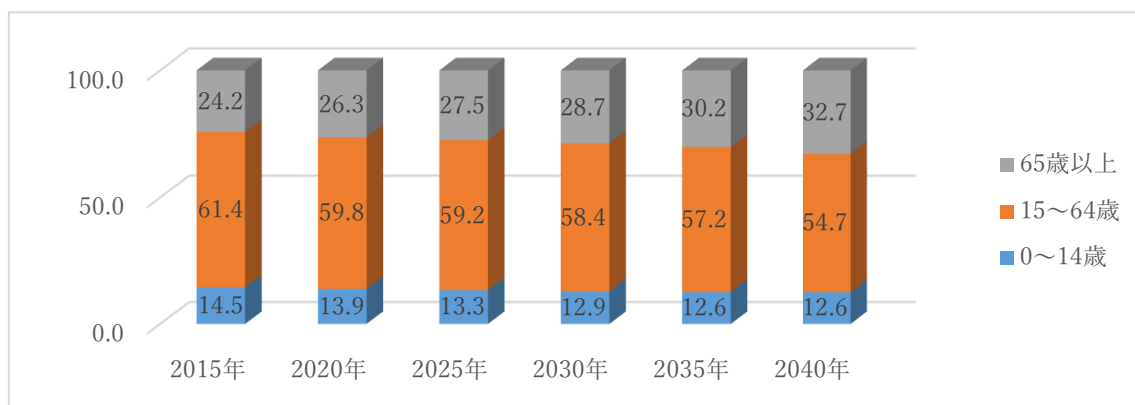
表 1 滋賀県の人口増減推移

年	2015 年	2025 年	2040 年
全国（千人）	127,095	120,659	107,276
滋賀県（千人）	1,411	1,398	1,304
滋賀県増減率	—	▲0.9%	▲7.6%

（国立社会保障・人口問題研究所推計より作成）

年齢 3 区分別人口の推計を見ると、年少人口が占める割合は、2015 年の 14.5%あったものが 2040 年には 12.6%に低下し、生産性人口の占める割合も 2015 年の 61.4%から 2040 年には 54.7%に低下する。一方、高齢者の割合（高齢化率）は、2015 年の 24.2%から 2040 年には 32.7%にまで上昇するとされている（図 2）。

図 2 滋賀県 年齢 3 区分別人口割合の推移(単位：%)



（国立社会保障・人口問題研究所推計より作成）

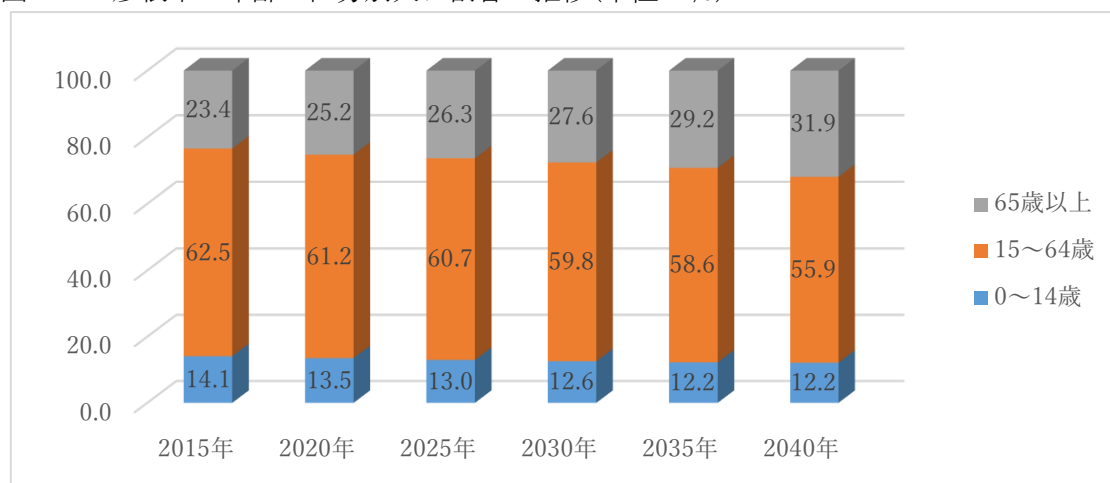
さらに、人口推計を地域別にみた場合、彦根市の人口は 2040 年 10.9 万人とされ、2015 年に比べて 3.5%減少し、年齢 3 区分別人口の推移も年少人口（14.1%→12.2%）、生産性人口（62.5%→55.9%）、高齢者人口（23.4%→31.9%）となる（図 3）。

長浜市の人口は 2040 年 9.6 万人とされ、2015 年に比べて 18.2%減少し、年齢 3 区分別人口の推移も年少人口（13.9%→12.0%）、生産性人口（59.3%→53.4%）、高齢者人口（26.9%→34.6%）となる（図 4）。

米原市の人口は 2040 年 3.1 万人とされ、2015 年に比べて 18.7%減少し、年齢 3 区分別人口の推移も年少人口（13.1%→10.5%）、生産性人口（59.0%→53.6%）、高齢者人口（27.9%→35.9%）となる（図 5）。

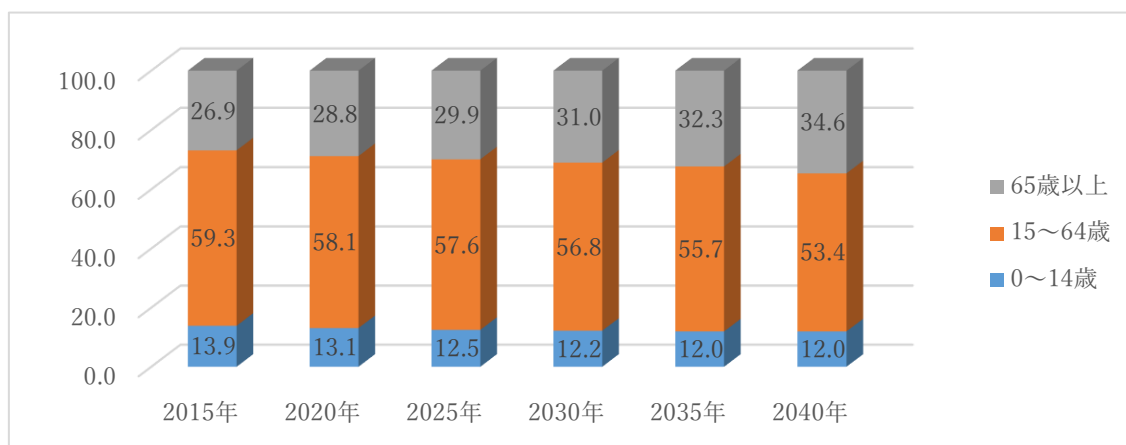
このようにびわ湖東北部地域は、2040 年といった長期的展望に立った場合、人口減少に伴う、生産性人口の減少及び少子高齢化の進展の影響克服が必要となる。

図3 彦根市 年齢3区分別人口割合の推移(単位：％)



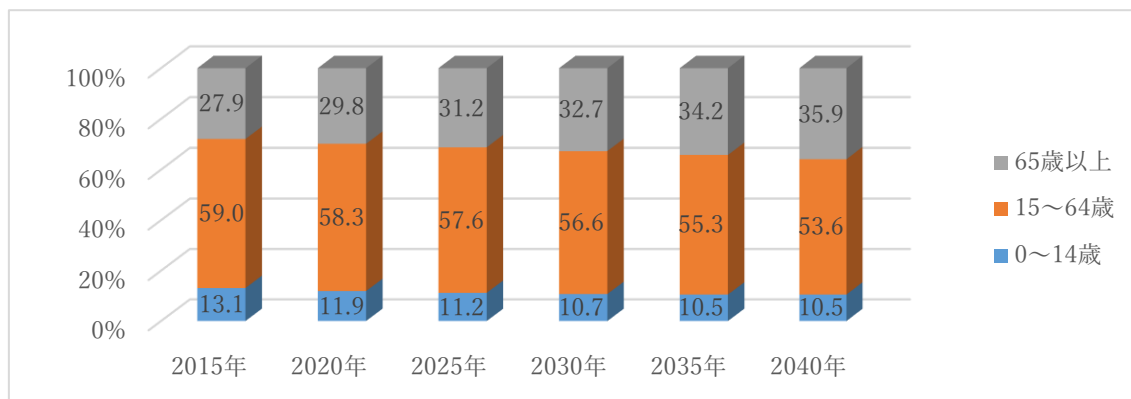
(国立社会保障・人口問題研究所推計より作成)

図4 長浜市 年齢3区分別人口割合の推移(単位：％)



(国立社会保障・人口問題研究所推計より作成)

図5 米原市 年齢3区分別人口割合の推移(単位：％)



(国立社会保障・人口問題研究所推計より作成)

びわ湖東北部地域に共通する地域課題と特徴について、自治体、経済産業界等、大学・短期大学、その他団体等とも協議の上、本プラットフォームとして現状分析した結果、以下の課題を認識している。

暮らしに与える影響

- 地域コミュニティの弱体化
- 地域文化の伝承の危機
- 医療・介護従事者の不足
- 地域防災活動や防犯・交通安全活動の弱体化
- 高等教育を含む教育環境レベルの低下
- 県土及び琵琶湖等の自然環境保全の機能低下

地域経済に与える影響

- 若年層及び子育て世代の地域外への流出
- 消費の減少による経済活力の低下
- 生産年齢人口（労働人口）の減少による労働力不足
- 熟練した技術の継承危機
- 空き家・空き店舗の増加による景観の悪化に伴う観光資源の魅力低下
- 公共施設等の社会資本の維持コストの増大

これら課題は、日本全国の地域社会に共通する課題である一方で、びわ湖東北部地域における固有の課題でもある。これらの課題に取り組む高等教育機関は、問題の普遍性と特殊性を十分に把握する必要がある。また、地域固有の課題を克服することは、地域の魅力・吸引力を高める可能性があるということでもあり、堅実な教育研究に加えて、自治体、経済産業界等と協働し、チャレンジ精神に満ちた新たな試みを目指すことも大切となる。

(3) 地方自治体の総合戦略

本プラットフォームでは地域の課題をこのように認識すると共に、滋賀県及び彦根市、長浜市、米原市においても課題克服に向け、それぞれ総合戦略を定め、基本方針等を示している。

① 滋賀県：人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略

目指す将来像を実現するための戦略

【基本的な考え方】

1. 人口減少を食い止め、人口構造を安定させる
2. 人口減少の影響を防止・軽減する
3. 自然と人、人と人とのつながり、生活のゆとりを取り戻す

【重視する視点】

1. 3世代の自立・共生と健康
2. 未来・次世代への応援
3. 「働く力」、「創る力」、「稼ぐ力」の向上

② 彦根市：彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略

【基本目標】

1. 魅力ある安定した雇用が生まれるまちづくり
2. 次代を担う子どもたちを安心して産み、育てることのできるまちづくり
3. 若者のチャレンジにより、新しい人の流れが生まれるまちづくり
4. 時代に合った地域の中で、安心な暮らしを守るまちづくり

③ 長浜市：長浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略

【基本目標】

1. 産業振興により「活力あるまち」を創造する
2. 地域資源を生かし「魅了するまち」を創造する
3. 子育て世代から「選ばれるまち」を創造する
4. 時代に合った都市をつくり、「安心して住み続けたいまち」を創造する

④ 米原市：まち・ひと・しごと 米原創生総合戦略

【基本目標】

1. 魅力ある雇用を創出し、女性や若者が活躍するまちを創る
2. ひとが集い、若者世代が移り住むまちを創る
3. 滋賀県一子育てしやすいまちを創る
4. 駅を核として地域と地域を結ぶ、安心して安全なまちを創る

地域課題と滋賀県及び彦根市・長浜市・米原市が打ち出している総合戦略を結び付けて、びわ湖東北部地域内の知の拠点である高等教育機関と自治体・地域経済界等が連携し、社会の持続可能な開発目標であるSDGsを活用しながら、びわ湖東北部地域の課題を解決していくために、本プラットフォームは計画した事業を推進していく。

3. 滋賀県 びわ湖東北部地域の大学・短期大学の現状分析

(1) 現状分析

① 基本データ

【大学】

大学数	11 校(びわ湖東北部地域内：4 校)
滋賀県 18 歳人口(2017 年)	14,411 人
滋賀県 18 歳人口(2028 年)	13,640 人
18 歳人口 増減率	▲5.4%
高等学校卒業者数(2017 年度)	12,884 人
大学進学者数(2017 年度)	7,182 人
大学進学率(18 歳人口比)	49.8%
滋賀県内の大学への入学者数	7,498 人
滋賀県の高校出身者の県内大学への進学者数	1,530 人
滋賀県外の高校出身者の県内大学への進学者数	5,968 人
進学流入者数	5,968 人
進学流出者数	5,652 人
流入超過	316 人
残留率	21.3%
主な進学流入元	1 位 京都府(1,358 人) 2 位 大阪府(1,282 人) 3 位 愛知県(462 人)
主な進学流出先	1 位 京都府(2,953 人) 2 位 大阪府(1,314 人) 3 位 兵庫県(224 人)
びわ湖東北部地域内の大学への入学者数	1,679 人
びわ湖東北部地域内の大学への入学者数(県内出身者)	471 人
びわ湖東北部地域内の大学における就職率	98.9%
びわ湖東北部地域内の大学における県内就職率	20.9%

(出所：滋賀県内の大学 HP、滋賀県 平成 29 年統計だより第 760 号、リクルート進学総研のマーケットレポート Vol.54 2018 年 1 月号をもとに作成) ※放送大学の入学者数と就職者数を除く

【短期大学】

短期大学数	3 校(びわ湖東北部地域内：1 校)
滋賀県 18 歳人口(2017 年)	14,411 人
滋賀県 18 歳人口(2028 年)	13,640 人
18 歳人口 増減率	▲5.4%
高等学校卒業者数(2017 年度)	12,884 人
短期大学進学者数(2017 年度)	835 人
短期大学進学率(18 歳人口比)	5.8%
滋賀県内の短期大学への入学者数	491 人
滋賀県の高校出身者の県内短期大学への進学者数	394 人
滋賀県外の高校出身者の県内短期大学への進学者数	97 人
進学流入者数	97 人
進学流出者数	441 人
流入超過	▲344 人
残留率	47.2%
主な進学流入元	1 位 京都府(45 人) 2 位 岐阜県(13 人) 3 位 福井県(11 人)
主な進学流出先	1 位 京都府(313 人) 2 位 大阪府(58 人) 3 位 岐阜県(41 人)
びわ湖東北部地域内の短期大学への入学者数	93 人
びわ湖東北部地域内の短期大学への入学者数(県内出身者)	41 人
びわ湖東北部地域内の大学における就職率	100%
びわ湖東北部地域内の大学における県内就職率	66.0%

(出所：滋賀県内の大学 HP、滋賀県 平成 29 年統計だより第 760 号、リクルート進学総研のマーケットレポート Vol.54 2018 年 1 月号をもとに作成)

② びわ湖東北部地域の大学の教育研究 (本事業参加校 2014 年度-2017 年度)

【滋賀大学】(彦根キャンパスのみ)

➤ 産官学連携による地域貢献活動

活動件数：57 件

主な活動

- ・ 地場産業再生 MOT フォーラム
- ・ 海外展開支援事業
- ・ 地域活性化プランナー学び直し塾

- ・ 淡海公民連携研究フォーラム

➤ 産官学連携等による共同研究

共同研究数：18 件

主な研究

- ・ 金融業におけるデータサイエンスの応用
- ・ 健康寿命延伸を目的とした高齢者の生活データ解析・診断に向けての基礎研究
- ・ インバウンドマーケティング対策
- ・ 近江商人に関する研究

➤ リカレント教育または生涯学習としての公開講座等

公開講座等：117 件

主な内容

(公開講座)

- ・ データサイエンス教室
- ・ 環境会計への招待－会社の環境活動を会計から読み解く－
- ・ 大人マナー教室

(公開授業)

- ・ データサイエンスへの招待
- ・ 経済学からの問い
- ・ 環境問題を学ぶ
- ・ 古文書解説

➤ 小・中・高生向けの教育支援活動

教育支援活動：8 件

主な活動

- ・ データサイエンス学部連続講座
- ・ 経済学部連続講座
- ・ 高大接続・入試センター連続講座

【滋賀県立大学】

➤ 産官学連携による地域貢献活動

活動件数：75 件

主な活動

- ・ 県内地方自治体からの受託研究
- ・ 公募型地域課題研究

➤ 産官学連携等による共同研究

共同研究数：51 件

主な研究

- ・県内企業等との共同研究

- リカレント教育または生涯学習としての公開講座等
公開講座等：16 件

主な内容

- ・春期公開講座（各年度 4 回実施）
- ・社会人専門講座（3 回シリーズ）
- ・前期公開講義
- ・後期公開講義

- 小・中・高生向けの教育支援活動
教育支援活動：47 件

主な活動

- ・学生団体（近江楽座）による小学校等での出前講座
- ・大学教員による滋賀県内の高等学校での出張講義

【聖泉大学】

- 産官学連携による地域貢献活動
活動件数：19 件

主な活動

- ・CLC セミナー（地域力循環型キャリア教育）
- ・宇曽川に菜の花を咲かせようプロジェクト
- ・彦根ユネスコ協会の活動への青年層の参画促進事業
- ・PBL 型インターンシップによる商品開発
- ・近江楽座
- ・オリジナル健康体操開発
- ・映画ソーリズムの提案・実践

- 産官学連携等による共同研究
共同研究数：6 件

主な研究

- ・民間病院、公立病院看護師等との共同研究

- リカレント教育または生涯学習としての公開講座等
公開講座等：30 件

主な内容

- ・看護キャリアアップ講座、看護キャリアジャンプ講座
- ・看護卒業生研修会
- ・健康づくりリーダー育成講座

➤ 小・中・高生向けの教育支援活動

教育支援活動：18 件

主な活動

- ・ 豊郷町小学生夏休み学習サポート
- ・ 彦根市少年リーダー養成講座
- ・ 外国人の子どもたちの学習支援
- ・ 若者の投票率アッププロジェクト
- ・ 放課後児童クラブのサポート
- ・ 高校連携講座

【長浜バイオ大学】

➤ 産官学連携による地域貢献活動

活動件数：48 件

主な活動

- ・ 滋賀バイオプロジェクト創出サロン
- ・ 長浜アカデミックサポートチーム
- ・ カスミサンショウウオの保全活動（田村山生き物ネットワーク活動）
- ・ 長浜人の地の酒プロジェクト
- ・ iGEM Nagahama
- ・ 滋賀県ものづくりフェスタ&しごとチャレンジフェスタ

➤ 産官学連携等による共同研究

共同研究数：56 件

主な研究

- ・ 各省庁・国立研究開発法人からの受託研究
- ・ 企業との共同研究、受託研究

➤ リカレント教育または生涯学習としての公開講座等

公開講座等：30 件

主な内容

- ・ 淡海生涯カレッジ長浜校
- ・ 長浜生涯カレッジ

➤ 小・中・高生向けの教育支援活動

教育支援活動：134 件

主な活動

- ・ 夏休み子供科学教室/夏休み親子科学教室
- ・ 子供の知的好奇心をくすぐる体験講座
- ・ 大学連携による科学講座モデル事業（塩津小学校）
- ・ 長浜学びの実験室 小中学生講座

- ・子ども長浜学

【滋賀文教短期大学】

➤ 産官学連携による地域貢献活動

活動件数：29 件

主な活動

- ・ぶんぶんひろば(地域の子育て支援と学生の質の向上を目的とした地域連携活動)

➤ リカレント教育または生涯学習としての公開講座等

公開講座等：31 件

主な内容

- ・書道講座
- ・水彩画講座
- ・白居易の諷諭詩について～新楽府 50 首から～
- ・滋賀の児童文学
- ・ボランティア養成講座

➤ 小・中・高生向けの教育支援活動

教育支援活動：12 件

主な活動

- ・長浜市立長浜南小学校創立 50 周年記念事業の記念授業参加
- ・長浜市杉野小中学校訪問
- ・通学合宿
- ・出前講座

③ 現状分析

全国の 18 歳人口は、1991 年の 205 万人をピークに、2017 年は 118 万人まで減少した。この減少傾向に歯止めがかかることはなく、2030 年は 101 万人、2040 年は 80 万人までに減少することが推計されている。

こうした人口減少が予測される中、リクルート進学総研のマーケットリポート(Vol. 54 2018 年 1 月号)を参考にすると、滋賀県の 18 歳人口は 2017 年の 14,411 人から、2028 年には 13,640 人(5.4%減)になるとされている。滋賀県の進学率を 2017 年の 55.6%から同水準とした場合の大学・短期大学進学者は、約 8,000 人から約 7,600 人(約 5%減)となり、大学・短期大学進学者の減少はそれほど大きくない。しかし、滋賀県内高校出身者の滋賀県内の大学等への残留率を見ると、2017 年では 24.0% (大学：21.4%、短期大学：47.2%) となり、全国平均である 42.8%の約半分である。人数に換算すれば大学・短期大学への進学者である約 8,000 人のうち、約 1,900 人が県内の大学・短期大学に進学し、約 6,000 人は大学・短期大学等への進学を機会に県外へと移っている。一方、流出した滋賀県内高校出身者数とほぼ同数の滋賀県以外の高校出身者が滋賀県内の大学・短期大学に入学している状況にある。つまり、滋賀県の高等教育の現状として、18 歳人口が減少すると

いった人口減少の直接的影響を受けるというよりも、滋賀県内の大学・短期大学進学者の約 8 割を滋賀県以外の高校出身者に占められているということがある。

滋賀県内の大学・短期大学進学者の約 8 割が滋賀県以外の高校出身者であることを考えれば、就職を機に滋賀県を離れてしまう可能性が高くなる。事実、滋賀県内の大学に在籍する者の滋賀県内就職率は約 3 割という水準に留まっている。地域社会の発展を担う人材の育成機能を地域社会における知的基盤として高等教育機関に求められる中、いかに滋賀県外出身者を滋賀県内の地域社会に惹きつける教育を施すかという課題が見えてくる。

大学在學生に、滋賀県内の地域社会に惹きつける教育の実践として、各大学では地域連携活動、産官学連携による共同研究を推し進めている。本プラットフォーム事業参加校における地域連携活動 228 件、産官学連携による共同研究 131 件という形で積極的に展開され、びわ湖東北部地域をフィールドに諸活動を通じ学生が活動している。これら諸活動の成果は数字としても表れており、本プラットフォーム事業参加校の滋賀県内就職率の 22.4%、入学者に占める滋賀県内出身者の 28.9%と残留率を上回り、大学と地域社会との結び付きが強化されている。

一方、これらの諸活動は、個別大学と自治体・経済産業団体または個別企業という形で展開され、大学間連携による地域貢献活動、共同研究といった展開は弱い。人口減少社会を迎える中、個別大学と自治体・経済産業団体または個別企業といった点と点の結び付きの重要性は変わらないものの、地域の魅力を高めるために、いかに地域の高等教育水準を高めていくかも重要になってくる。そのため、大学間連携、複数のステークホルダーを巻き込んだ産官学連携といった面としての活動を強化していく必要がある。

その他、本事業の活動地域では、子育て世代の流入、Uターンによる流入、といった自治体が認識している地域特性がある。本プラットフォーム事業参加校の学術分野では、保健・家政及び教育といった子育て世代をサポートできる大学・短期大学、従来の学術分野に加えて、データサイエンスや予防医学といった新産業の創出に向けた学術拠点としての基盤整備が進んでいる。一方で、これら子育て世代の社会復帰に向けた教育、新産業の担い手教育の展開は始まったばかりである。

これらの課題も含め、びわ湖東北部地域の高等教育水準を向上させることは、びわ湖東北部地域を豊かに働き生活できる魅力ある地域にすることを可能にするため、本プラットフォーム事業を展開する意義があると考ええる。

(2) 滋賀県 びわ湖東北部地域の学術マップと特色

滋賀県には現在 14 校の大学・短期大学があり、びわ湖東北部地域には本事業に参加する 5 校の大学・短期大学があり、その学術分野は表 2 のようになっている。人文科学からその他まで幅広い分野をカバーしており、参加校全体で総合大学のような展開が期待できる。自治体が認識している地域課題と解決の取組にとって極めて柔軟性高く対応できると言える。そのため、本プラットフォーム事業を推進することは、びわ湖東北部地域で豊かに働き生活できる地域社会の創出につなげることができる。

表 2

国公私	大学・ 短期大学名	学部	学科	学術分野
国立	滋賀大学	経済学部	経済学科	社会科学
			ファイナンス学科	
			企業経営学科	
			会計情報学科	
			社会システム学科	
		データサイエンス 学部	データサイエンス学科	その他
公立	滋賀県立大学	環境科学部	環境生態学科	その他
			環境政策・計画学科	
			環境建築デザイン学科	
			生物資源管理学科	
		工学部	材料科学科	工学
			機械システム工学科	
			電子システム工学科	
		人間文化学部	地域文化学科	人文科学
			生活デザイン学科	
			生活栄養学科	
			人間関係学科	
			国際コミュニケーション 学科	
		人間看護学部	人間看護学科	保健
私立	聖泉大学	人間学部	人間心理学科	人文科学
		看護学部	看護学科	保健
私立	長浜バイオ大学	バイオサイエンス 学部	フロンティアバイオサイ エンス学科	理学
			アニマルバイオサイエ ンス学科	
			メディカルバイオサイ エンス学科	
私立	滋賀文教 短期大学	—	国文学科	人文科学
		—	子ども学科	教育

※びわ湖東北部地域にキャンパスがある分野のみ掲載

(3) 課題

これらの状況から析出されるびわ湖東北部地域の高等教育機関における課題は、下記の

①～⑥である。

- ① 大学等に入学してくる県外出身者を滋賀に惹きつける教育が弱い
- ② 就職時の県外流出率が高い
- ③ 大学間で連携して地域の高等教育課題について協議体制が整っていない
- ④ 個別大学と自治体、経済団体との結びつきに留まっている
- ⑤ 地域ニーズを踏まえた教育を十分に実践できていない
- ⑥ 地域課題の解決のために大学が持つ研究機能を活用しきれていない

4. 基本ビジョン及び実施計画

(1) 基本ビジョン

これらのびわ湖東北部地域における高等教育の現状及び認識する地域課題を踏まえ、本プラットフォームでは、びわ湖東北部地域を魅力と活気のある地域社会の創出を目指すため、以下のビジョンと教育研究目標を掲げて事業を推進する。

《豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出》

- ① 若年人口の流出抑制
- ② 安心・安全な生活環境の整備
- ③ 産官学連携による新産業の創出
- ④ 学びたい時に学べる教育環境の提供

《持続発展可能な地域社会の実現》

- ① 地域資源を利用した活気のある地域
- ② 大学の学びと地域社会での活動の好循環サイクルのある地域
- ③ 豊かな自然を守り、自然との共生を実現する地域
- ④ 学生が地域社会で躍動する地域

《本プラットフォームの教育研究目標》

- ① 産官学連携による地域課題に取り組むイノベーターの育成
- ② 地域課題の解決に導く大学間連携・産官学連携による教育研究の実施
- ③ 地元住民に開かれた知の拠点としての高等教育基盤の確立
- ④ 子育て・介護を支援する地域ネットワークの充実

(2) SDGs の活用

① SDGs

「環境」と「開発」を互いに反するものではなく共存し得るものとして捉え、環境保全

を考慮した節度ある開発が可能であり重要であるという共通認識のもと、「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」を「持続可能な開発」という形で、1980年に国際自然保護連合（IUCN）、国連環境計画（UNEP）などが取りまとめた「世界保全戦略」で表した。その後、国際連合の「環境と開発に関する世界委員会」が1987年に発行した最終報告書において中心的な理念とされ、広く認知された。

こうした流れの中、2015年9月25日の国連総会において、向こう15年間の新たな持続可能な開発の指針として「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。この中に「持続可能な開発目標（SDGs）」が含まれている。SDGsは複雑な社会的、経済的、環境的課題を幅広くカバーしており、「17の目標と169のターゲット」からなる。持続可能な開発の担い手育成の関係において、特に教育機関における人材育成と関係しているほか、大学・研究機関における研究や産官学連携・イノベーションにも関係している指針となっている。

2017年1月、滋賀県は全国に先駆け、SDGsを県政に取り込むことを宣言し、県の政策にSDGsの視点を活用するとともに、経済界、大学等多様なステークホルダーとのパートナーシップを拡大しており、県内ではSDGsの達成に向けた様々な取組や新たな連携が行われている。そのため、本プラットフォーム事業においてもSDGsの視点を活かしながら事業を推進していく。

【本プラットフォーム事業で活用するSDGs 17の開発目標】

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に保健と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさも守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナリシップで目標を達成しよう

② びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学地域連携プラットフォームがSDGsを活用する意義

滋賀県が県政に取込んでいる SDGs を本プラットフォームにおいても活用する意義は以下の通りである。

SDGs の枠組みを念頭に置き、地域社会の課題を克服するための取組について、1 つの取組が同時にいくつもの SDGs の目標を意識した取組になっている。このような SDGs の事例は、新聞報道等でしばしば紹介されている。つまり、SDGs の枠組みを念頭に置き、課題解決に向けて取り組んだ場合、様々な立場から複眼的に分析することの重要性に気付くことができる。次世代の社会を担う大学生を抱える高等教育機関において、SDGs の枠組みを念頭に置いて取り組むことは、地域課題を解決するために、複眼的な視野を持つ『人材育成』の機会創出であり、産官学連携を推進する中での『新しいモノサシ』となるため、本事業において SDGs を活用する意義がある。

また、SDGs に関連する取組において、異なる課題の解決を目指した複数の取組が、実際はどちらも 1 つの目標に関わっていることがしばしばある。一見すると別々に解決すればよいと考えられてきた課題の中に、実は共通する課題が存在していることに気付くことを可能とする。根本的な課題が同じであれば、複数の取組間で解決策を共有することで、課題解決に向けた取組をスピードアップできる可能性が高くなる。特にこれまで特色ある教育・研究を行い、強みを活かしながら地域課題に取り組んできた各大学が、地域課題に対する解決策を共有することで、『課題解決のスピードアップ』につながるため、本事業において SDGs の活用は地域課題の解決の可能性を高めることとなる。

さらに、SDGs は分かりやすく、多くの人を巻き込みやすいため、SDGs の達成に向けて取り組む団体が、課題解決を目指す仲間を見つける格好の目印とすることができる。地域課題を解決するために SDGs を活用することで、本プラットフォーム事業において産官学連携に携わる人々を増やし、関係者との結び付きを強くする『磁石』の役割が期待できる。本事業をきっかけにびわ湖東北部地域の課題を解決に向けた連携基盤の強化につながるため、SDGs を本プラットフォーム事業で活用する意義がある。

以上のことから、本プラットフォーム事業において SDGs を活用することは、地域課題の解決を担う『複眼的な視野を持つ人材育成』、産官学連携を推進する中での『新しいモノサシ』、地域課題の解決に向けた『課題解決のスピードアップ』、産官学連携基盤を強化する『磁石』としての効果が期待でき、本プラットフォーム事業が掲げる「豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出」に向けたエンジンとして期待が出来る。

(3) 数値目標の設定

本プラットフォーム事業では、参加自治体・大学・短期大学等の間で認識している地域課題の中から、大学進学時、大学卒業後の就職時の若年層の県外流出の流れを止めること、UIJ ターンや子育てのために地域に戻ってきた社会人が地域社会で活躍できるように新産業を後押しする産官学共同研究、また、社会人が必要なスキルを必要なタイミングで学べる教育環境の整備することで地域社会を豊かにし、豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出につながると考え、各項目に関して数値目標を設定し、事業経過 3 年後及び事業最終年度前年の事業実績に対して達成度評価を行い、中間評価及び最終事業評価を行う。

(4) 事業内容及び具体的目標

① 事業実施計画の概要及び数値目標

(1)、(2)、(3)で掲げた基本ビジョン及び教育研究目標を達成するために、「A. 産業振興に向けた産官学連携事業」、「B. 地域コミュニティの活性化事業」、「C. 地域を担う次世代人材の育成事業」を3つの柱とし、SDGsを踏まえながら、高等教育機関・地方自治体・産業界が連携し、びわ湖東北部地域を発展させるために本事業に取り組み、改革を推進する。また、地域課題の解決のために高等教育機関が有する知の拠点機能を積極的に共同利用する。

具体的な事業活動に対して、各大学が持っている教育・研究機能を最大限活用し、また各大学が相互扶助しながら、知の拠点として持続的発展が可能な地域となるために行っている事業活動の状況を地域外に情報発信するために、「D. 広報・HP管理」を設定している。これらAからDすべての事業活動について、外部の委員の意見を取り入れ、各事業活動の進捗及び事業評価を組織的に検証・改善、連携して地域の高等教育の質の向上に努める。そのために本プラットフォーム事業連携協議会のもとに、4つのワーキンググループを立ち上げ、具体的な数値目標を掲げて本事業に取り組む。

② 事業実施計画と具体的取組

本プラットフォームでは、「A. 産業振興に向けた産官学連携事業」、「B. 地域コミュニティの活性化事業」、「C. 地域を担う次世代人材の育成」の3つの分野において事業を実施する。これら3つの分野それぞれに地域課題の解決に向けた具体的な活動を設定している。各事業はSDGsを活用し事業を推進していく。これに加え、本事業全体の進捗管理のため「D. 事業管理」を加えた形で事業を推進する。

なお、各分野の具体的な取組事業概要、達成目標（KGI）、活動指標（KPI）は次ページ以降にある通りである。各分野の具体的な取組については年度ごとの進捗状況の確認、見直し検討を行うことにより事業の確実な遂行に必要な変更を行うことがある。

なお、2020年8月までは協議会名称を「彦根長浜地域連携協議会」としていたが、2020年9月より「びわ湖東北部地域連携協議会」に変更している。そのため、2019年度の事業概要及び数値目標、具体的な取組事業内容での記載では「彦根・長浜地域」と表現している。

③ 2019 年度 事業概要及び数値目標

A. 産業振興に向けた産官学連携事業

課題	達成目標 (KGI)	取組事業概要	具体的な活動 (取組事業)	活動指標 (KPI)
彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。	・地域資源をいかした 6 次産業化促進事業 ・地域産業界に向けた研究紹介 ・大学間共同研究を推進するための研究設備データベースの構築と共同利用の促進 ・産官学を通じた大学発のベンチャー企業の設立 ・異業種交流研究会	・産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
		大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。	・ローカルインターンシップ ・インターンシッププログラム開発 ・インターンシップ&業界研究フェア＋SDGs ・新規学卒者の就職・採用活動支援（湖北就活フェア、保育就職フェア、合同説明会バスツアー、合同就職支援講座）	・地域連携インターンシップ 活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
		産官学共同研究の成果や地元産業について、地方雇用創生事業と連携したうえで、プラットフォーム参加校・産業界・自治体の情報発信網を整備し、自治体が行う UIJ ターン推奨事業の事業活性化をはかることにより滋賀県内企業へ	・UIJ ターン推進事業（就職・転職活動の人数把握に関する検討会）（就職・転職活動者への情報発信）	・UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年

		の就職を支援する。		間 20 名以上を実現する。
--	--	-----------	--	----------------

B. 地域コミュニティの活性化事業

課題	達成目標（KGI）	取組事業概要	具体的な活動（取組事業）	活動指標（KPI）
彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。	生涯学習拠点整備事業 ・ 市民土曜講座（第 1 回～第 7 回） ・ 公開講座 ・ 滋賀文教短期大学開放講座 ・ 春期公開講座 ・ 社会人専門講座	地域住民向けの公開講座の参加者を最終年度までに、2018 年度比で 100 名以上増加させる（延べ人数）
		自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。	地域住民に向けた健康増進支援事業 ・ 健康づくりリーダー養成講座 ・ 健康ウォーキングイベント ・ 認知症をめぐる共生社会構築のための協働プロジェクト ・ 健康 IoT を利用したきょういくときょうようの健康づくり事業	地域住民向け健康支援イベントを最終年度までに 5 件以上行う
		プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。	国際交流促進事業 ・ 中国語講座 ・ 日独親善交流音楽会 まちづくり支援事業 ・ 長浜曳山まつり ・ 町家プロジェクト ・ 学生の地域貢献プロジェクト ・ 彦根市リーダー研修	・ 産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる。 ・ びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生による

			・人口減少・高齢化を見据えた課題解決のための取組支援事業 - びわ湖周辺環境整備事業 ・クラフト体験 ・ビジネスメッセ	ブース発表を最終年度までに5件以上行う。
		・地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・大学教職員・自治体職員・産業界の人的ネットワークを整備すると共に、各活動団体の定期的な交流会を開くことにより、地域への愛着を持った地域を担う人材を育成する。	- ネットワーク推進事業 ・びわ湖東北部地域連携プラットフォーム セミナー大会・交流会 ・学生の地域貢献活動報告会&交流会	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年2回以上開催し、活動の満足度等を測定する。

C. 地域を担う次世代人材の育成

課題	達成目標（KGI）	取組事業概要	具体的な活動（取組事業）	活動指標（KPI）
今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立	・SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施、及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。	- SDGs をテーマとした共同講義事業 - 単位互換事業 ・県内大学 SDGs 単位互換科目 ・キャンパス SDGs びわこ大会 ・滋賀論	・SDGs をテーマにした共通科目を1科目以上開発する。 ・単位互換科目受講生を最終年度までに2018年度比で30名以上増加させる。
		・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供（大学説明会）及び学習支援事業（大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等）を実施する。	- 幼・小・中・高校生への学習支援事業 ・こどもプログラミング教室 ・不登校プロジェクト - 地域内進学促進事業 ・地域内進学促進意見・情報交換会	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに5件以上行う。 ・プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年1回以上開催する。

		・彦根・長浜地域の子育て等でキャリアにプラ ンクのある社会人、又はプラットフォーム参加 校の卒業生を対象に、地域内での就職につな がるリカレント教育プログラムを実施する。 ・プラットフォーム参加校による社会人向けの 共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の 講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリ ーダー的人材の育成を図る。	地域人材活性化支援事業 ・SDGs 地域人材養成事業 ・キャリアアップ講座「子どものプレ パレーション検討会」 ・長浜学びのカレッジ ・本を紹介してみませんか 2019～ POP・本の帯コンクール ・ナイチンゲール看護研究会・滋賀 ・キャリアアップ講座（潜在保育士・ 保育補助者対象）	・社会人等向けの共同教育講 座を最終年度までに 5 講座以 上実施する。
		・彦根・長浜地域の共同教育事業の確立にあた り、プラットフォーム参加校の教育の質向上を 図るために、大学教職員向けの教育機会（共通 FD/SD）を設ける。	共同 FD・SD 事業 ・FD 研修会（よい授業の要件につい て考える） ・共同 FD 研修 ・SD 研修会（大学と地域との関わり について） ・SDGs シンポジウム ・初等教育懇話会	・共同 FD/SD 研修を年 1 回以 上実施し、最終年度までに各 大学の教育の質の向上及び教 職員の質の向上に役立てる。

D. 広報・HP 管理

課題分野	D. 事業管理		
No.	実施事業	SDGs の活用	事業概要
D-1	中長期計画の策定		中長期計画を取りまとめる。
D-2	広報活動		本事業の進捗・成果等の情報発信のために HP 開設、 報告書等の配布、事業総会による情報提供を行う。
D-3	中長期計画の進捗管理		中長期計画で策定した各事業において、 各 WG と連携し、進捗状況を管理する。
D-4	中間報告書の作成		各 WG による自己評価を取りまとめ、中間 外部評価実施後、中間報告書を作成
D-5	事業総会の 企画・運営		各年度において、各事業の成果報告会を 実施
D-6	外部評価の実施		外部評価するために必要な企画・運営。
D-7	最終報告書の作成		各 WG による自己評価を取りまとめ、最終 外部評価を実施後、最終報告書を作成
D-8	中長期計画の改定		本事業の進捗状況において、中期計画の修 正が必要な場合に、計画の改定作業を実 施する。
D-9	次期計画の策定		中長期計画終了後、事業の継続・発展に 向けた次期計画についての準備を行う。
補足事項			
本事業の円滑な運営を行うために、中長期計画の進捗管理を目的に設置しているため、SDGs の活用は行わない。			

④ 具体的な取組事業内容

(1) 2019 年度 A. 産業振興に向けた産官学連携事業

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化
取組事業名	取組 1 (産官学連携事業)
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワークを整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	3・8・9・11・12
取組事業 No.	A-1-1 地域産業界に向けた研究紹介
2019 年度の具体的な活動	産学連携研究を進めるためには、大学がどのような研究をしているのかを産業界に知ってもらうことが第一ステップである。しかし、各大学が研究者紹介などの冊子を作成してはいるものの、その内容は専門的で難解であるとの声が多い。この問題を解決するために、本プラットフォーム連携大学で共通の平易な表現を用いた研究者紹介ハンドブックを作成して地域産業界に配布することにより、産学連携研究のきっかけをつくる。さらに、このハンドブックの内容を事業最終年度までに研究者データベースとしてインターネット上に公開する準備を行う。 ① 「誰にでもわかる彦根・長浜の研究紹介ハンドブック」の作成 ② 研究者データベースの構築とインターネット公開準備 ③ 地域内企業への研究紹介イベントの実施
現在の進捗状況	取組活動の準備のためのミーティング：2019 年 7 月 12 日（聖泉大学に於いて） ハンドブックの全体構成の検討（随時個別対応） ハンドブック完成予定（2019 年 12 月中旬） 研究紹介イベントの打ち合わせ：2020 年 1 月（連携大学に於て） 研究紹介イベントの実施：2020 年 2 月（連携大学に於て）

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化
取組事業名	取組 1（産官学連携事業）
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	8・9・12
取組事業 No.	A-1-2 大学間共同研究を推進するための研究設備データベースの構築と共同利用の促進
2019 年度の具体的な活動	本プラットフォーム連携大学間の共同研究を推進するために、各大学が保有する研究施設及び研究設備等の情報を共有し、相互に利用できる仕組みをつくる。この取組により、個々の研究においては研究費の抑制や研究の効率化に役立つと共に、大学間の交流機会が増えることによる共同研究の機会が増大することが期待できる。 ① 研究設備データベース及び研究設備共同利用システムの構築 ② 研究者交流会の実施
現在の進捗状況	①共同システム構築に向けた打合せ、交流会の検討会議 取組活動の準備のためのミーティング：2019 年 7 月 12 日（聖泉大学に於いて） 打ち合わせ：2019 年 9 月（連携大学に於いて） システム構築の検討：随時個別対応 ②研究者交流会 交流会：2020 年 2 月（連携大学に於いて）

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化
取組事業名	取組 1（産官学連携事業）
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	8・9・12・14
取組事業 No.	A-1-3 産官学を通じた大学発のベンチャー企業の設立
2019 年度の具体的な活動	滋賀県ではアユやニジマス等の水産業が盛んであったが、近年は従事者の高齢化、施設の老朽化、魚飼料の高騰等の原因により水産業者の撤退・閉業が続いている。また、滋賀県の清酒業界では、以前には買い取られていた酒粕が産業廃棄物として有料処分となり、大きな問題となっている。本取組では、水産業と清酒業の問題を同時に解決するために、酒粕を利用した低価格の魚飼料の開発を目指す。さらに、これらの研究成果を地域活性化に活用するために、大学発ベンチャー企業を設立し、地域雇用の充実に貢献する。 ① 酒粕を利用した魚飼料の開発とその有効性の検証 ② ビワマス飼育池の造営 ③ 酒粕収集システムの構築 ④ 大学発ベンチャー企業の設立
現在の進捗状況	これまでに、ビワマス養殖業者との共同研究によりビワマスに脂を乗せる飼料を開発し、さらに、酒造業者の支援により酒粕を利用した安価な飼料を作成することができた。長浜バイオ大学の学部学生と修士学生が多数、研究開発に参加している。 2019 年 7 月 13 日に開催された滋賀テックブラングランプリに参加し、「最優秀賞」と「関西みらい銀行賞」を獲得した。また、全国マリンテックグランプリへの最終選考にも進んでいる。 今後、2019 年 7 月 19 日に開催した食味試験を通して本飼料を評価すること、地域内において養殖池でビワマスを飼育・出荷することを計画している。

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化
取組事業名	取組 1（産官学連携事業）
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	9
取組事業 No.	A-1-4 異業種交流研究会
2019 年度の具体的な活動	地域産業界との共同研究を推進するために、彦根異業種交流研究会「GAT 彦根」と合同講演会を開催する。 ① GAT 彦根との合同講演会を開催する。
現在の進捗状況	合同講演会の準備ミーティング：2019 年 8 月下旬（彦根商工会議所に於て） 講演者の調整：2019 年 9 月 合同講演会の実施：2019 年 10 月 17 日（長浜バイオ大学 大会議室に於て） 合同講演における周知の範囲と方法を検討

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化
取組事業名	取組 2（インターンシップ、採用支援事業）
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・11
取組事業 No.	A-2-1 インターンシッププログラム開発
2019 年度の具体的な活動	プラットフォーム参加校と地域企業や事業所との交流会を通じ、地域企業等の新卒採用に向けたインターンシップに関する課題と大学生のインターンシップ、就職活動に関する課題を共有し、それぞれの課題解決に向けた取組みへと結びつける。 検討会(1) ・外部講師（PF 参加大学のキャリア科目担当教員や民間の新卒採用コンサルティング会社など）を講師に招き、新卒採用やインターンシップの実態解説。 検討会(2) ・地域内事業所の新卒採用やインターンシップに関する課題抽出および、学生と企業・事業所の双方にメリットのあるインターンシッププログラム開発に向けた意見交換やワークショップ。
現在の進捗状況	講演者、内容の検討 2019 年 8 月、事業所の募集等 2019 年 9 月～ 検討会 2019 年 11 月 6 日（水）を予定 於：長浜バイオ大学 上記の検討会(1)(2)の 2 部構成として開催する。 参加者：キャリアセンター等教職員×PF 参加校（5～10 名） 参加者：彦根・長浜を中心とした地域内事業所（20～30 名）

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化
取組事業名	取組 2（インターンシップ、採用支援事業）
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・11
取組事業 No.	A-2-2 インターンシップ&業界研究フェア+SDGs
2019 年度の具体的な活動	[概要]・PF 参加大学の学生に対し、インターンシップに取り組む地域内事業所等の紹介を行い、学生がインターンシップの内容、企業やその業界、職種内容について理解を深めることで学生達の就業観を高めるきっかけをつくる。また、インターンシップ参加促進、学生と地域内事業所との接点を創出する。 ・インターンシップフェア、業界研究会を複合して実施することで職業選択の幅を広げられるようにする。 ・SDGs、ESG に取り組む企業の紹介や、SDGs・ESG を就職活動にいかすためのセミナーを開催し、持続可能な社会の形成についても理解を深める。 （業界、参加事業所には保育、医療（看護、臨床）など専門職分野の業界、事業所も含む。） [2019 年度実施計画] 7 月 実施に向けての検討、調整、課題、改善策の洗い出し 8 月 イベントの全体内容確定 募集要項の作成 当日の運営の分担依頼 会場のレイアウト確定 9 月 事業所への依頼開始 SDGs 講演者の選定 10 月 事業所確定、事業所へ紹介冊子の作成依頼 11 月 PF 参加校へ周知、当日配布の事業所紹介冊子完成 実施日：12 月 21 日（土） 於：長浜バイオ大学 参加学生（大学・短期大学の全学年） 目標：100 名（PF 連携 5 大学を中心） 参加事業所・ 地域内事業所 ：40 事業所（医療・保育：8 事業所、SDGs 取り組み：5 事業所以上）
現在の進捗状況	・上記の計画を検討したが、より詳細な内容を今後スケジュールに沿って PF 連携機関で検討する

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化
取組事業名	取組 2（インターンシップ、採用支援事業）
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・9・11
取組事業 No.	A-2-3(1) 新規学卒者の就職・採用活動支援
2019 年度の具体的な活動	（湖北地域企業と学生のマッチング事業） 実施時期：2019 年 11 月～2020 年 3 月 対象学生：2020 年卒学生 対象大学：長浜バイオ大学・滋賀文教短期大学・聖泉大学・滋賀大学・滋賀県立大学 ○湖北地域の企業と学生のマッチング事業 湖北就活ナビ実行委員会が 2020 年 3 月卒の学生の就職を希望している湖北地域の事業所を募り、リストを作成する。募集の条件としては、希望学生があれば、大学に出向き面談を行う意思のある企業とする。 進路が決定していない学生から相談を受けたキャリアセンターが学生の希望を聞き、リストの中の事業所と日程調節の上、大学での面談を設定する。 なお、面談については各大学の要望に合わせて、学生 1 対企業 1 の面談だけでなく、企業を複数社呼び、複数の学生を呼ぶような小規模の合同説明会形式の開催も可能。
現在の進捗状況	9 月 事業所説明会 10 月 事業所募集 11 月 リスト配布

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化
取組事業名	取組 2（インターンシップ、採用支援事業）
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
対応 SDGs 番号	3・11
取組事業 No.	A-2-3(2) 新規学卒者の就職・採用活動支援
2019 年度の具体的な活動	（保育就職フェア） 【計画の概要：保育就職フェア】 ・本計画は「新規学卒者の就職・採用活動支援」の 1 つである。 ・「子育て支援」に課題がある地域の課題解決に向け、彦根・長浜市内で保育士・幼稚園教諭として就職を希望する当該年度卒業予定者に対して「保育就職フェア」を開催し、地域内の私立園への採用支援を行うもの。フェアではブース形式で私立園の紹介や採用情報の説明を行う。 ・2019 年度までは滋賀文教短期大学において、在学生を対象に実施している。前年度に翌年度の計画・調整を行っているため、2019 年度はプラットフォーム事業としては実施せず、2020 年度に向けての計画・準備を行う。 【2019 年度の活動】 ・7 月に「滋賀文教短期大学 保育就職フェア」を実施し、8 月から 9 月にかけて今年度の反省をふまえ、翌年度の事業計画の素案を練る。 ・10 月から翌年 1 月にかけてプラットフォーム参加大学・自治体の担当者において計画を調整し、私立園に提案できる程度にまでまとめる。 ・次年度の事業実施が確定する 2～3 月頃に私立園に次年度計画を提案し、3 月中に現時点での参加希望状況を把握する。参加希望数をもとに会場等の詳細な計画を立てる。 ・参加対象園は彦根・長浜市内の私立園（30 法人 43 園）で、参加目標は 20 法人。参加対象学生はプラットフォーム参加大学の 2021 年 3

	月卒業予定者を中心とするが、他大学の学生で参加園への就職を希望している卒業予定者も参加対象に含むことを検討している。学生の参加目標は 50 名（滋賀文教短大で 30 名、他大学 20 名） 【2020 年度に想定している活動】 ・ちらしや資料作成、学生への周知、参加園・参加学生の把握等は 2020 年度 4～6 月に行い、7 月の土曜午後に実施できるよう準備する。場所は滋賀文教短期大学または彦根・長浜市内で学生が参加しやすい会場を利用予定。
現在の 進捗状況	2019 年 1 月 2019 年度滋賀文教短期大学保育就職フェアを私立園に提案 2019 年 3 月 私立園の参加希望状況を把握、学生に開催日を周知 2019 年 6 月 私立園にフェアの詳細を連絡し、出席者把握 2019 年 7 月 開催に向けて資料等の準備中。20 日（土）に開催予定。 2019 年 8 月 以降、上記の活動予定のとおり 2020 年度の準備を行う予定 2020 年 7 月 土曜午後に「保育就職フェア」を実施予定（PF 事業として）

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化
取組事業名	取組 2（インターンシップ、採用支援事業）
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	・地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・11
取組事業 No.	A-2-3(3) 新規学卒者の就職・採用活動支援
2019 年度の具体的な活動	（合同説明会バスツアー＋合同就職対策講座） ・実施時期：2020 年 2 月中旬～下旬 ・実施場所：大学サテライト・プラザ彦根またはコラボしが 21 ・対象大学：長浜バイオ大学・滋賀文教短期大学・聖泉大学・滋賀大学・滋賀県立大学 ・対象学生：大学 3 年生中心 ・交通手段：バス（大型 2 台） ・活動内容： ①合同就職対策講座 「就職活動の準備講座」という位置付けで開催する。講座の内容としては、「自己分析」「業界研究・企業研究」「ES 対策」「面接対策」等を実施する。「自己分析」「業界研究・企業研究」「ES 対策」等は、業者に委託する。「面接対策」は参加する学生を予めグループ分けし、集団模擬面接を実施する。他大学の学生と同席することによって、お互いの刺激となり、また他大学の学生の現状を知ることができ自身の視野を広げることにもつながる。集団模擬面接に協力していただく企業は、彦根商工会議所、長浜商工会議所を通じて依頼する。 ②合同説明会バスツアー ①の準備講座を受講の上、3 月初旬に開催されるマイナビ就職 EXPO 大阪（または京都）にバスツアーを組んで参加し、実践を積む。 ※この活動は、①②両方に参加することを条件とする。
現在の進捗状況	関係者との打ち合わせ、意見交換等の実施日程の決定 出展企業依頼への準備

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化
取組事業名	取組 2（インターンシップ、採用支援事業）
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・9・11
取組事業 No.	A-2-3(4) 新規学卒者の就職・採用活動支援
2019 年度の具体的な活動	（学生と地域経営者との面談会＋バスツアー＋合同就職対策講座） 実施時期：2020 年 2 月または 3 月（春休み） 実施場所：長浜バイオ大学 対象大学：長浜バイオ大学・滋賀文教短期大学・聖泉大学・滋賀大学・滋賀県立大学 他県内大学 交通手段：バス ○湖北就活ナビ実行委員会の企画にバスツアーを行うもの ①就職セミナー（13：30～14：30） 現在の就職活動のトレンドや働き方、内定獲得術について元(株)博報堂の企業採用コンサルタントを招き、セミナーを行う他、アプリを活用し、学生と双方向で就職活動を考える機会を提供する。 ②経営層との面談会（14：30～16：30） 説明会のブース形式の会場に地元湖北地域の経営層（主に社長を想定）に出て頂き、事業の説明や働くことについて、経営方針等の話を聞く。実際に会社経営をされている方の話を聞くことで就職活動だけではなく、地方経済や社会についての学習の場とし、産官学の連携を強化する。 ③企業の採用担当者による集団模擬面接会（16：30～18：00） 実際の人事担当者に模擬面接をしていただき、実際に「企業が求めている人材」と学生の認識のズレを認識する機会とする。他の参加学生との振り返りを行い、自己分析や情報交換の機会とする。
現在の進捗状況	10 月～ 参加事業説明会 12 月 参加事業所募集 2 月または 3 月 開催予定

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化
取組事業名	取組 3 (UIJ ターン事業)
取組事業概要	産官学共同研究の成果や地元産業について、地方雇用創生事業と連携したうえで、プラットフォーム参加校・産業界・自治体の情報発信網を整備し、自治体が行う UIJ ターン推奨事業の事業活性化をはかることにより滋賀県内企業への就職を支援する。
活動指標	UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・11
取組事業 No.	A-3-1 UIJ ターン推進事業
2019 年度の具体的な活動	(就職・転職活動の人数把握に関する検討会) UIJ ターン就職・転職者の人数把握について自治体・大学・産業界が協力してできる方法等がないかを検討し、人数把握の方法や情報発信する際の対象範囲の限定方法を考え、UIJ ターンの情報発信に役立てるようにする。 ①UIJ ターンの実態の把握 ・県や市の UIJ ターンを担当している方（中小企業団体中央会様や民間で UIJ ターン事業主）を講師に招き、UIJ ターンの実態の解説をしていただく。 ②把握方法の検討会 ・自治体・大学・産業界で人数把握の方法、情報提供する際の対象者の設定の仕方について検討し、将来の情報発信に役立てる。
現在の進捗状況	(就職・転職活動の人数把握に関する検討会) ①2019 年 9 月日程の確定、講師依頼、内容の調整、連携機関関係への周知 2019 年 12 月 実施 ②2019 年 9 月日程の確定、検討事項の整理、連携機関への周知 2019 年 12 月 検討会実施

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化
取組事業名	取組 3 (UIJ ターン事業)
取組事業概要	産官学共同研究の成果や地元産業について、地方雇用創生事業と連携したうえで、プラットフォーム参加校・産業界・自治体の情報発信網を整備し、自治体が行う UIJ ターン推奨事業の事業活性化をはかることにより滋賀県内企業への就職を支援する。
活動指標	UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・11
取組事業 No.	A-3-1 UIJ ターン推進事業
2019 年度の具体的な活動	(就職・転職活動者への情報発信、冊子等の発信媒体の検討) 事業実施 2 年目以降、UIJ ターン希望者に必要とする情報発信を可能にすることを目標に卒業生ネットワークの整備、自治体等が実施する UIJ ターン関連の説明会に参加し、UIJ ターン対象者の反応を確かめる。 ①卒業生への発信方法の検討と情報発信・冊子等の発信媒体の検討 ・UIJ ターンに関する情報を大学の卒業生ネットワークに情報提供できるように、各大学の校友会組織の活用を検討してもらい、「就職・転職活動の人数把握に関する検討会」で得られた情報を参考にした UIJ ターンに関する情報を発信してみる。 ・冊子等の情報発信媒体の検討 ②UIJ ターン希望者の情報発信・反応調査 ・自治体等が実施している UIJ ターン関連の説明会に参加し、プラットフォームとして情報発信、UIJ ターン希望者の反応を確かめる。
現在の進捗状況	(就職・転職活動者への情報発信、冊子等の発信媒体の検討) ①2019 年 9 月 PF 参加校、同窓会組織、卒業生への情報発信など担当者と打合せ 自治体、商工会実施の UIJ ターン事業の情報収集 (12 月～3 月分) 各 PF 校で卒業生への情報発信方法の検討をいただく。 2020 年 1 月 実際に情報発信 ②2019 年 12 月～2020 年 3 月に実施される UIJ ターン事業 (説明会やイベント) に参加

(2) 2019 年度 B. 地域コミュニティの活性化事業

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座の参加者を最終年度までに、2018 年度比で 100 名以上増加させる (延べ人数)
対応 SDGs 番号	4・11
取組事業 No.	B-1-1 市民土曜講座 (第 1 回～第 7 回)
2019 年度の具体的な活動	「毎回異なるテーマで地域住民に向けた公開講座を実施する」 ・本学の教員によるバイオサイエンスに関する自然科学系や聖泉大学、滋賀文教短期大学など連携大学による人文科学系講座、外部講師による講演を地域の拠点としての大学の教育・研究を学びの場として長浜市、彦根市など近隣自治体の住民に向け実施する。 第 1 回 6 月 8 日「我々の暮らしの中のバイオサイエンス」 講師：蔡 晃植 (長浜バイオ大学 学長) 第 2 回 7 月 20 日「激動する世界」 講師：鈴木 元 (国際環境整備機構 理事長) 第 3 回 9 月 21 日「健康なからだ作りのために知っておきたいビタミンのお話」 講師：重岡 成 (長浜バイオ大学 特別招聘教授) 第 4 回 10 月 19 日「看護とストレス耐性を高める心身のリラクゼーション法」 講師：小山 敦代 (聖泉学園 理事長・聖泉大学 学長) 第 5 回 11 月 16 日「いわさきちひろの歩んだ道と絵画」 講師：松本 猛 (いわさきちひろ美術館 名誉館長) 第 6 回 12 月 21 日「近代日本史のなかの多様性」 講師：神谷 昌史 (滋賀文教短期大学 国文学科長) 第 7 回 3 月 7 日「人生 100 年時代にどう備えるか」 講師：永田 宏 (長浜バイオ大学 教授)
現在の進捗状況	第 2 回 市民土曜講座 7 月 20 日 (土) 14:00-16:00 テーマ「激動する世界」講師：鈴木 元 氏 チラシ 1900 部 (長浜市、滋賀銀行ほか関係機関に配布済) 7/12. 18 滋賀夕刊掲載予定 第 3 回～第 7 回 案内チラシ作成 (7 月中頃以降配布) 広報誌 (ながはま) 掲載 その他情報誌へ掲載予定

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	取組 1（生涯学習拠点整備事業）
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座の参加者を最終年度までに、2018 年度比で 100 名以上増加させる（延べ人数）
対応 SDGs 番号	3・5・11・12・17
取組事業 No.	B-1-2 公開講座
2019 年度の具体的な活動	◆たのしい子育て応援講座 【ベビーマッサージ】定員 10 組 無料 ①6 月 29 日（土）10:00～11:30 ②11 月 23 日（土祝）13:30～15:00 講師：聖泉大学（木村知子、戸田美幸、漆野裕子、中村美由紀） 【ベビーエクササイズ】定員 10 組 無料 ①7 月 20 日（土）13:30～15:00 ②2 月 8 日（土）13:30～15:00 講師：聖泉大学（中井恭子、出石万希子、井上佳子、漆野裕子、中村美由紀） 【パパママクラス】定員 8 組 無料 8 月 24 日（土）13:30～15:30 講師：聖泉大学（井上佳子、出石万希子、中井恭子、助産別科学生） 【孫育て教室】定員 6 組 無料 2 月 29 日（土）13:30～15:30 講師：聖泉大学（出石万希子、井上佳子、中井恭子） ◆シンポジウム 【多職種協働プレパレーションの実践】定員 100 名 無料 8 月 10 日（土）13:30～15:00 企画：子どものプレパレーション検討会：代表・流郷千幸（聖泉大学看護学部教授） 講師：赤松志麻（大阪医科大学附属病院小児看護専門看護師）、式庄晃子（富山県立中央病院看護師・HPS）、原崎正士（静岡県立総合病院小児科医）、小長谷秀子（静岡県立総合病院保育士・HPS） 【認知症の人と、支える人へのケア】定員 100 名 無料 10 月 12 日（土）13:30～15:00 講師：力石泉（豊郷病院地域包括統括部長）、梅本高男（認知症の人と家族の会滋賀支部副代表）、磯邊厚子・桶河華代・川嶋元子（聖泉大学在宅看護学領域教員）
現在の進捗状況	6 月 29 日（土）ベビーマッサージ、7 月 20 日（土）ベビーエクササイズは定員に達したため、申込締切。 その他の講座は現在申込中。 次年度の講座は、秋頃から検討を開始し、12 月頃に決定する。

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	地域課題に取り組む活動及び活動参加者数を 2018 年度比で 1 割増加させる。
取組事業名	取組 1（生涯学習拠点整備事業）
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座の参加者を最終年度までに、2018 年度比で 100 名以上増加させる。（延べ人数）
対応 SDGs 番号	4・11
取組事業 No.	B-1-3 滋賀文教短期大学 大学開放講座
2019 年度の 具体的な活動	滋賀文教短期大学 大学開放講座 「ボランティア養成講座」 会場：滋賀文教短期大学 湖国カルチャーセンター （概要）福祉やボランティアに関する基本的な技術や知識を学ぶことにより、地域社会を支えるボランティア活動などに参加するきっかけをつくる。 ボランティア活動の心構え、人権、読み聞かせ、音楽あそび、紙芝居、食育について、ワークや演習をとおして活動につなげていく。 6 回のシリーズで開講。各回ごと申し込みを受け付ける。 （おもな対象者）定年退職を控えた方、定年退職された方及び高齢者の方でボランティア活動に関心がある方、ボランティア活動を始めてみたい方 ①テーマ：できることから、わたしから 日時：令和元年 6 月 26 日（水） 13:00～15:30 ②テーマ：楽しく学ぼう人権のイロハ 日時：令和元年 7 月 31 日（水） 13:30～15:30 ③テーマ：大人から子どもたちへ 「こころに届ける読み聞かせ」 日時：令和元年 8 月 28 日（水） 13:30～15:30 ④テーマ：わらべうたでひろがる音楽あそび 日時：令和元年 9 月 25 日（水） 13:30～15:30 ⑤テーマ：紙芝居 あなたも輝く演じ手に！ 日時：令和元年 10 月 30 日（水） 13:30～15:30 ⑥テーマ：お米を原料にした手作りおやつ 日時：令和元年 11 月 27 日（水） 13:30～15:30
現在の 進捗状況	6 月 26 日（水）8 名参加、7 月 31 日（水）5 名参加 その他の講座は現在申込受付中。8 月、10 月は各回とも定員 20 名を超えているが、希望者があれば受け付ける。 （募集要項・チラシ配布） 配布済み

	長浜市、米原市、彦根市内のおもな公共施設、長浜市シルバー人材センター、長浜市社会福祉協議会、米原市社会福祉協議会（ボランティアセンター）、一般社団法人滋賀県退職教職員互助会長浜支部会員 （広報誌等への掲載） 広報ながはま「情報ひろば」5/1号、6/1号、7/15号掲載 9/1号掲載予定 滋賀の生涯学習情報誌 7～11月号、京都新聞大学講座ガイド欄掲載中
--	---

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	取組 1（生涯学習拠点整備事業）
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座の参加者を最終年度までに、2018 年度比で 100 名以上増加させる（延べ人数）
対応 SDGs 番号	3・4・12
取組事業 No.	B-1-4 社会人専門講座
2019 年度の 具体的な活動	同一テーマについて少人数で専門的に学ぶ。対象は一般 ・開催日 11/12（2 コマ）, 11/19（1 コマ）の 3 回開催予定 ・講師 本学人間文化学部生活栄養学科 3 名の教員に内定 ・開催テーマ「食べ物から探る私たちの健康」予定 ・定員 20 人予定 ※広報開始は 9 月を予定している。
現在の 進捗状況	・学内にて開催内容について調整中。 ・開催日、講師、定員、開催テーマは「2019 年度の具体的な活動」記載のとおり内定 今後は各回のテーマ、内容を 7 月中に決定予定し、チラシの作成を行う。 デザイン等検討し、8 月（下旬）～チラシ印刷予定。 9 月（下旬）に広報開始、10 月末申し込み締め切りを予定している。

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	取組 2（地域住民に向けた健康増進支援事業）
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標	地域住民向け健康支援イベントを最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	3・4・11
取組事業 No.	B-2-1 健康づくりリーダー養成講座
2019 年度の 具体的な活動	トータルコーディネーター 多胡陽介（人間学部准教授・健康運動指導士） 【初級編】全 3 回・定員 20 名・1500 円 ①9 月 12 日（木）10:00～12:00「体力測定と健康相談～自分の健康状態を詳しく知ろう～」講師：間文彦（看護学部教授） ②10 月 30 日（水）10:00～12:00「ノルディック・ウォーキング」講師：多胡陽介（人間学部准教授） ③12 月 4 日（水）10:00～12:00「運動と心の健康～簡単な音楽体操やレクリエーション活動を通じて～」講師：山越章平（人間学部講師） 【中級編】全 4 回・定員 20 名・3500 円 ①6 月 8 日（土）10:00～12:00「心と身体のリラクゼーション」講師：小山敦代（学長・看護学部教授） ②6 月 8 日（土）13:00～15:00「やってみよう！丈夫な足腰をつくる簡単エクササイズ」講師：中原今日子（健康運動指導士） ③6 月 22 日（土）11:00～13:30「アクティブ・シニアに必要な栄養と食事について」講師：奥井智美（非常勤講師・管理栄養士） ④7 月 13 日（土）10:00～12:00「簡単な体操やレクリエーションを作ってみよう！」講師：安孫子尚子（看護学部准教授）多胡陽介（人間学部准教授）
現在の 進捗状況	中級編 15 名申し込み講座実施中。全ての回に出席された方には、修了書をお渡しする。 初級編・上級編募集中。（上級編は初級・中級修了者対象） ※上級は申込者が限定している為、PF 事業として公開していない。 ※次年度は内容の見直しを考えている。（秋頃から次年度の内容を検討予定）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	取組 2（地域住民に向けた健康増進支援事業）
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標	地域住民向け健康支援イベントを最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	3・4・11
取組事業 No.	B-2-2 健康ウォーキングイベント
2019 年度の具体的な活動	健康づくりリーダー養成講座の上級編の受講生が企画するイベント。上級受講生は、地域の自主サークルや介護予防サークルなどの活動を継続するために、主催者と参加者がミニイベントの企画と運営を考え実施するものです。 ■開催日：11 月 16 日（土）9:30～12:30 ウォーキングイベント □準備：9 月企画、10 月広報・募集
現在の進捗状況	ウォーキングイベントを企画する上級受講生の募集中。 10 月中旬には募集チラシを作成するので、広報・募集活動の協力をお願いしたい。

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	取組 2（地域住民に向けた健康増進支援事業）
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標	地域住民向け健康支援イベントを最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	3・11・17
取組事業 No.	B-2-3 認知症をめぐる共生社会構築のための協働プロジェクト
2019 年度の具体的な活動	高齢化社会を迎え、社会問題化してきている認知症という課題に対して、P F 連携機関、各種団体、地域住民などが協働して課題解決の道を探る。2019 年度については、フィンランドにおける認知症研究や取り組みに対する調査と、彦根・長浜地区における課題の抽出、プラットフォームの形成などに取り組む。
現在の進捗状況	現在、フィンランド調査について、調査内容などの検討を行うとともに、第 1 回研究会の準備を進めている。 「第 1 回公開研究会」 日時： 9 月 27 日（金）13:20～15:40 会場：滋賀大学 講師： 須藤ヒールデザイン研究所所長・仁木阪大助教・香水グループホーム施設長

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	取組（地域住民に向けた健康増進支援事業）
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標	地域住民向け健康支援イベントを最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	3・4・9・11・17
取組事業 No.	B-2-4 健康 IOT を利用したきょういくときょうようの健康づくり事業
2019 年度の具体的な活動	65 歳時に高次生活機能（一人で生活できる、人や社会との交流能力等）を高い水準に保つことがその後の健康維持につながるという長寿関連の研究結果が示されており、そのために定年退職後もきょういく（今日行くところがある）ときょうよう（今日用がある）のある活動的な生活が有効と言われている。また、健康関連の IOT 技術によりスマホさえあれば自ら自分自身を測定して健康管理ができるものが開発されていることから、健康 IOT を使って健康な中高年が自ら高次生活機能維持に取り組める仕組みを作り、健康維持ひいては健康寿命の延伸を目指す。 きょういくときょうようの重要性と健康 IOT について学び、周囲に広げるリーダーを 2019 年度に養成し、次年度以降、リーダーによる教室の実施により、健康 IOT の普及を促す。 また、教室では市内の様々な社会活動 G を紹介し、出席者を社会参加につなげていく。
現在の進捗状況	8 月 → 講師・会場手配・日程調整（10 月後半） （8 月中旬～後半）チラシ案作成→見積依頼 9 月 → 参加者勧奨 チラシ印刷・広報開始 ※事前予約を 9 月～10 月初頭まで受付 10 月 → 講座開催準備 10 月末→ 事業実施

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	取組 3（国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業）
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	11・16
取組事業 No.	B-3-1 国際親善交流音楽会
2019 年度の具体的な活動	地域における芸術文化の振興を図ること、また、音楽を通じた国際交流活動を推進することを目的として、長浜市内の市民コーラス団体と、アジア諸国の合唱団（現時点では、マレーシアの合唱団を予定）との共演による国際親善交流音楽会を実施する。 開催日は 2020 年 2 月 8 日（土）13:00～、会場は長浜市内を予定している。
現在の進捗状況	共演グループの調整を行っている。現時点では、マレーシアの合唱団（18～23 歳対象）18 名程度を予定している。先方の都合により、来日が決定するのが 8 月下旬となるため、予備として、台湾の民族楽器の演奏グループにもコンタクトを取っているところである。

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	取組 3（国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業）
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	3・4・5・10・11・16・17
取組事業 No.	B-3-2 学生の地域貢献プロジェクト
2019 年度の具体的な活動	自治体・地域団体等と連携し、地域の課題に対して、学生と教員が取り組む地域貢献プロジェクト ①認知症予防啓発（地域の健康課題を共有し健康課題を解決するための学習を行う。地域サロンで学習成果を発表する。健康づくりイベントを企画・広報・実施） ②地域活性化貢献（地域の概要を理解した上で、前半は高齢者サロンの活動に参加し対話を中心にした交流を行い、後半はボランティア活動や地域の伝統行事等に高齢者と共に参加する。子どもの発達を支える活動や高齢者の要望に対応した活動も行う） ③2019 別科助産専攻が行う「子どもの虐待予防：オレンジリボン運動」（オレンジリボン運動を看護フェア 2019 と一緒に開催する。本学でパパママクラスの実施、助産師実習施設で、妊産婦および家族に向けてマルトリートメントの予防と愛着を促す指導を行う。）
現在の進捗状況	各プロジェクトで活動中。 9 月初旬 報告会の要項公開 11 月下旬 発表資料まとめ 12 月 8 日 報告会（事業 No.B-4-2 と連動する）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	取組 3（国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業）
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	4・11
取組事業 No.	B-3-3 彦根市リーダー研修
2019 年度の具体的な活動	彦根市の小中学生が大学生と共に地域のイベントを企画・運営することで生きる力を身に付ける。大学生は青年リーダーとして野外活動や小中学生の支援を行う。（※今年度の中級は環びわ事業） 6 月 8 日 ＊少年リーダー上級サポート（稲枝サマーフェスタの話を聞く） 6 月 29 日、7 月 20 日、7 月 25 日 ＊少年リーダー上級サポート（稲枝サマーフェスタ準備） 8 月 3 日 ＊少年リーダー上級サポート（稲枝サマーフェスタ出店） 8 月 19 日、20 日 ＊少年リーダー中級サポート（防災キャンプ） 9 月 14 日 ＊少年リーダー中級サポート（保護者研修、修了式） 8 月～9 月 ＊社会人とのトークイベント 10 月～11 月 ＊少年リーダー上級サポート（学園祭出店準備） 11 月 16 日、17 日 ＊少年リーダー上級サポート（学園祭出店） 12 月 21 日又は 22 日 ＊少年リーダー上級サポート（妹背まつり出店） その後、振り返り
現在の進捗状況	【追加募集】青年リーダーは、3 大学（聖泉・県立大・京都女子）8 名登録。夏休みに向けて、プラットフォームで再募集を行う。 【稲枝サマーフェスタ】出店準備中

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業														
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実														
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。														
取組事業名	取組 3（国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業）														
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。														
活動指標	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う														
対応 SDGs 番号	3・8・11・17														
取組事業 No.	B-3-4 人口減少・少子高齢化を見据えた課題解決のための取組支援事業														
2019 年度の具体的な活動	長浜市連合自治会のうち 3 地区連合自治会をモデル地区として選定し、研修会、ワークショップ等を実施。 そして、人口減少社会に対応した地域ビジョンづくりに着手するなど、地域のことを「我が事」として捉える地域づくりの第一歩を踏み出す内容とし、他地区へ波及することを目指す。検討内容は、関連テーマの講演会とともにパネルディスカッションにて発表。														
現在の進捗状況	<table border="0"> <tr> <td>令和元年 7 月 12 日（金）</td><td>事業説明会及び講演会</td></tr> <tr> <td>7 月 16 日（火）</td><td>応募受付開始</td></tr> <tr> <td>8 月 20 日（火）</td><td>応募受付締切</td></tr> <tr> <td>8 月下旬～9 月上旬</td><td>書類審査</td></tr> <tr> <td>9 月上旬</td><td>採択通知</td></tr> <tr> <td>9 月～</td><td>事業実施</td></tr> <tr> <td>12 月</td><td>事業内容の報告会及び講演会</td></tr> </table>	令和元年 7 月 12 日（金）	事業説明会及び講演会	7 月 16 日（火）	応募受付開始	8 月 20 日（火）	応募受付締切	8 月下旬～9 月上旬	書類審査	9 月上旬	採択通知	9 月～	事業実施	12 月	事業内容の報告会及び講演会
令和元年 7 月 12 日（金）	事業説明会及び講演会														
7 月 16 日（火）	応募受付開始														
8 月 20 日（火）	応募受付締切														
8 月下旬～9 月上旬	書類審査														
9 月上旬	採択通知														
9 月～	事業実施														
12 月	事業内容の報告会及び講演会														

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	取組 3（国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業）
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	4・9
取組事業 No.	B-3-5 ビジネスメッセ
2019 年度の具体的な活動	びわ湖環境ビジネスメッセ（2019 年 10 月 16 日～18 日）に彦根・長浜地域連携協議会としてブース出展予定（発表者は学生） 個別ブースにて本プラットフォーム事業の趣旨、活動実績、活動予定を発表する。 また、発表に向けての打合せを数回行う。
現在の進捗状況	現状はびわ湖環境ビジネスメッセのブースを予約。 今後、発表内容に関して複数回打合せ予定（8 月、9 月）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	取組 4（ネットワーク推進事業）
取組事業概要	地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・大学教職員・自治体職員・産業界の人的ネットワークを整備すると共に、各活動団体の定期的な交流会を開くことにより、地域への愛着を持った地域を担う人材を育成する。
活動指標	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。
対応 SDGs 番号	1～17（参画機関を募集中のため未定）
取組事業 No.	B-4-1 彦根・長浜地域連携プラットフォーム・セミナー大会&交流会
2019 年度の具体的な活動	彦根・長浜地域連携プラットフォームでツナガル SDGs を通して ～学び・集い・語りあう～ をテーマに公開講座、防災・環境・健康等のイベント、福祉の合同講演会、SDGs の講演等を実施する。 また、これを通じて集まった方々の意見交換の場を設け（自治体・大学・産業界・NPO 等各種団体・学生・地域住民等）、参加者同士が繋がるきっかけ、しくみづくり、次につながる意見を頂く。 日時：9 月 28 日（土）10:00～18:00 会場：聖泉大学 *PF 幹事校よりご挨拶・取組内容をお話頂く（キックオフ） *次年度を本格実施（全機関が参画）として、今年度はプレのイメージ *全ての連携機関の紹介をする（出展 or 資料） *開催地自治体（彦根市長へ依頼） *意見交換は、本日の内容・日頃の課題・PF で展開したいこと等、異業種交流会になるようグループメンバーを考える。 *各連携大学からコーディネーターの先生を依頼する。
現在の進捗状況	★新規事業のため、各機関と調整しながら以下の予定で進める。 6 月：PF リーダー校、WG-B 企画案メールにて送信 7 月：PF リーダー校へ企画案メールにて送信 7 月上旬：関係者と課題の調整、7 月 10 日までに原案を WG-B メンバーにお送りし、7 月 12 日 WG-B 会議で意見交換を行う。PF 関係機関

	へ参加依頼 7月中旬：チラシ作成準備 7月下旬：出展団体、企画決定 8月下旬：チラシ完成、配布、出展者説明会・会場下見・打合せ（必要に応じて） 9月上旬：自治体・商工会議所等の広報へ掲載 9月中旬：新聞折込、スタッフマニュアル完成 ★現状（7月下旬） *公開講座（聖泉大学小山学長・山口講師・山越講師）*生き物観察会（滋賀県湖東環境事務所） *防災関係（彦根市・防災士会・大阪ガス）*福祉講演会「お互い様の地域共生社会を目指して」（滋賀県社会福祉協議会） *交流会（話題提供：彦根市社会福祉協議会）*PF宣言（幹事校 長浜バイオ大学 向教授） *SDGs（カードゲーム実施予定）*連携機関（学生によるシーグラスクラフト体験。町家プロジェクト活動展示。SDGs 取組展示。その他） ※現在、内容・時間調整中
--	--

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	取組 4（ネットワーク推進事業）
取組事業概要	地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・大学教職員・自治体職員・産業界の人的ネットワークを整備すると共に、各活動団体の定期的な交流会を開くことにより、地域への愛着を持った地域を担う人材を育成する。
活動指標	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。
対応 SDGs 番号	1～17（発表プロジェクトをこれから募集するため未定）
取組事業 No.	B-4-2 学生の地域貢献活動報告会&交流会
2019 年度の具体的な活動	学生の地域貢献活動の報告会と PF 連携団体が交流の場を設ける。 日時：12 月 8 日（日）9:00～14:00 会場：聖泉大学 主催：聖泉大学 共催：彦根・長浜地域連携協議会 内容：午前）学生の地域貢献活動の発表会 聖泉大学 6 プロジェクト+防災の取組発表 PF 連携大学より各 1～2 団体募集し合同で報告会を実施する。 4 大学の先生方より講評を頂く（依頼予定） 午後）交流会 テーマを設けグループに分かれて意見交換を行う。 ※今年度は、COC+事業とも連携している。次年度につながるように実施する。
現在の進捗状況	★新規事業のため、各機関と調整しながら以下の予定で進める。 6 月：PF リーダー校、WG-B 企画案メールにて送信 7 月：PF リーダー校へ企画案メールにて送信 7 月 10 日までに、ブラッシュアップした企画案を WG-B メンバーにお送りし、7 月 12 日 WG-B 会議で意見交換を行う。 7 月下旬：実施要項完成、PF 連携機関へ配布、講評担当教員調整、発表者募集開始（各大学を通じてお願いする） 10 月上旬：チラシ作成準備、発表グループ、タイトル決定 11 月上旬：チラシ完成 11 月中旬：自治体・商工会議所等の広報へ掲載 11 月下旬：会場下見、打合せ（必要な方のみ） 12 月上旬：当日配布資料、スタッフマニュアル完成

(3) 2019 年度 C. 地域を担う次世代人材の育成

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 1 (SDGs をテーマにした共同講義事業) (単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施、及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学向けの教育環境の充実を図る。
活動指標	SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
対応 SDGs 番号	1～17
取組事業 No.	C-1-1 SDGs 単位互換科目
2019 年度の具体的な活動	環びわ湖大学・地域コンソーシアムの単位互換制度を活用し、県内学生の SDGs の理解を促進する講義を開催する。 ・ SDGs への県内大学生の理解を深め、行動を促進するため、環びわ湖大学・地域コンソーシアムの関連単位互換科目として SDGs に係る講義を開講する。(H30 年度は 85 名参加) ・ SDGs 達成に取り組む県内企業や、SDGs 推進委関わる方にも講師依頼して充実した講義を提供する。 ・ 一部の講義は公開で開催し、一般の方も広く受講できるようにする。
現在の進捗状況	令和元年 8 月 23 日～25 日に県庁及び滋賀県立大学において開催予定。 履修登録者数 87 名 (滋賀県立大学 52、滋賀大学 4、立命館大学 29、長浜バイオ大学 1、滋賀短期大学 1)

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 1 (SDGs をテーマにした共同講義事業) (単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施、及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学向けの教育環境の充実を図る。
活動指標	SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
対応 SDGs 番号	1～17
取組事業 No.	C-1-2 キャンパス SDGs びわ湖大会
2019 年度の具体的な活動	SDGs に係る県内外の大学等の交流を踏まえ、その行動を促進するためキャンパス SDGs びわこ大会を開催する。 ・県内外の学生、小中高生等が SDGs の達成に向けた情報発信や交流を行う大会を滋賀県立大学で開催する (H30 年度は 359 名参加)
現在の進捗状況	・11 月 16 日にキャンパス SDGs びわ湖大会を開催予定 (今後募集のため参加者の内訳は未定)

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 1 (SDGs をテーマにした共同講義事業) (単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施、及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学向けの教育環境の充実を図る。
活動指標	・ SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。 ・ 単位互換科目受講生を最終年度までに 2018 年度比で 30 名以上増加させる。
対応 SDGs 番号	1～17
取組事業 No.	C-1-3 単位互換科目「滋賀論」の開講
2019 年度の具体的な活動	環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用し、下記のとおり単位互換提供科目として開講している。 ・ 授業科目名：「滋賀論」 ・ 授業概要：滋賀県が持つ独自の風土や地域の個性を生かした地域づくりを実現するための考え方を実践的に学ぶ。行政担当者や実践者による講義と、現場見学やディスカッションを通じて、滋賀県が抱える具体的な政策課題に対する実践事例を理解する。琵琶湖上でのフィールドワークをふまえて、琵琶湖を中心とした地域資源の活用と保全のバランスが取れた政策提案をおこなう。
現在の進捗状況	前期集中講義（3 日間）で開催している。 【6/22（土）、6/29（土）、7/6（土）】 今年度の受講登録者数は以下のとおり ・ 聖泉大学 23 名 ・ 長浜バイオ大学 1 名 ・ (立命館大学 27 名)

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 2 (幼・小・中・高校生への学習支援事業) (地域内進学促進事業)
取組事業概要	幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を採択年度までに新たに 5 件以上行う ・プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-2-1 こどもプログラミング教室
2019 年度の具体的な活動	総務省統計局と滋賀大学が共催し、長浜市において、小学校 5・6 年生およびその保護者を対象に「こども統計プログラミング教室」を開催する。 小学生にも分かりやすいプログラミング専用こどもパソコンを使って、簡単なゲーム作成や、身近な統計データを使用し、グラフ化や平均値を算出するプログラミングを予定している。 2020 年には、小学校でプログラミング教育が必修化されるが、それを前に大学の研究者が分かりやすく指導することで、小学生や保護者の不安を軽減することを目指している。
現在の進捗状況	長浜市が建設中の建物の完成予定が本年 11 月末のため、12 月中旬頃に開催予定である。現在、関係者で打ち合わせを行い、具体的な計画を立てている状況である。今後は長浜市とも協力し、案内チラシ等を作成し、広報していく。

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 2（幼・小・中・高校生への学習支援事業）（地域内進学促進事業）
取組事業概要	幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供（大学説明会）及び学習支援事業（大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等）を実施する。
活動指標	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を採取年度までに新たに 5 件以上行う ・プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
対応 SDGs 番号	3・4
取組事業 No.	C-2-2 不登校プロジェクト
2019 年度の具体的な活動	彦根市と近隣の不登校の実態についての研究会（勉強会）を定期的に行う。教育部門と福祉部門での現状認識と課題の共有を行い、不登校支援の在り方を研究する。 研究の視点は次のものを想定している。 ・教育と福祉の連携 ・出席扱いをしてもらえる学習支援活動の在り方 ・各地のフリースクールやホームエデュケーションの視察 ・大学での居場所活動実現の検討
現在の進捗状況	彦根市教育委員会、彦根市子ども未来部子ども若者課、彦根市社会福祉協議会、滋賀県立大学 原先生との協力関係を結ぶことができた。 第 1 回研究会を、8 月 19 日（月）10:00～彦根市福祉センターにて開催予定である。 第 1 回研究会のテーマは、以下のとおり。 ① 不登校プロジェクトについて ② 不登校の実情と取り組みについて ③ 出席者による情報交換 ④ 今後の進め方について

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 2（地域内進学促進事業）
取組事業概要	幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供（大学説明会）及び学習支援事業（大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等）を実施する。
活動指標	・プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
対応 SDGs 番号	8・11
取組事業 No.	C-2-3 地域内進学促進意見・情報交換会
2019 年度の具体的な活動	彦根・長浜地域を活性化させるための一つとして、若い世代の地元高校生を、いかに地元の大学に進学させるか、またその後も以下に地元に着定させるかの包括的な方法等の意見・情報交換を行い、地元の高校生向けの大学説明会の共同運営方法の計画を立て、最終的に共同開催を行う。また、自治体や商工会議所等からの意見等も参考にする会となるようにする。 そこで、令和元年 11 月中旬を目途に、各大学より 2 名、入試渉外等関係者等及び、各団体より 1 名ずつの参加をするグループを形成。次年度以降地元高校生向けの大学説明会を行うにあたっての調整や、またそれだけに縛られず、幅広い視点での意見・情報交換を行うこととする。
現在の進捗状況	開催の案内文等の作成、今後各大学、団体に配布。 令和元年 11 月中旬頃を目途とする開催計画を立案中。

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 3（地域人材活性化支援事業）
取組事業概要	・彦根・長浜地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内の就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 ・プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標	・社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	1～17
取組事業 No.	C-3-1 SDGs 地域人材育成事業
2019 年度の具体的な活動	（概要）滋賀県立大学で SDGs 活用型課題解決ワークショップを行い、SDGs の視点を持った地域の担い手づくりを行う。 そして、養成した受講生は滋賀県立大学の地域人材バンクに登録を行い、SDGs 普及啓発の担い手として、大学の教職員と共に企業や NPO、関係団体を対象とした SDGs 推進に係る助言や出前講座等を行う。 ・SDGs 活用型課題解決ワークショップ（3 回）等の企画・運営 ・企業や NPO、関係団体を対象にした SDGs 推進に係る助言や出前講座等の実施
現在の進捗状況	・現在、企画内容を検討中だが、2019 年 12 月～2020 年 3 月にかけて、3 回連続講座を実施する予定。 ・参加者 20 名～30 名を想定。20 歳から 30 歳台前半くらいの若者層を主なターゲットとする。 ・マイプロジェクト（身の回りの課題や関心をテーマにプロジェクトを立ち上げ、実行することを通じて学ぶ探求型の学習プログラム）の手法を活用した講座を予定している。

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 3（地域人材活性化支援事業）
取組事業概要	・彦根・長浜地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内の就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 ・プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標	・社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	3・4・5・8・11・17
取組事業 No.	C-3-2 キャリアアップ講座「子どものプレパレーション検討会」
2019 年度の具体的な活動	保健・医療・福祉・教育機関在職者を対象とする看護研究の講習 今年度は、プラットフォーム事業として「プレパレーション検討会ビギナーコース」を 3 回実施する予定。 1 回目 6 月 3 日（月） 13:00～16:00 聖泉大学 2 回目 10 月 8 日（火） 13:00～16:30 聖泉大学 3 回目 2020 年 3 月初旬 聖泉大学 主に小児科病棟で勤務している看護師が集まり、病院内で行われている痛みを伴う処置のプレパレーションの方法と子どもの権利が擁護されているかどうかを考えた活動を行う。また看護師同士でプレパレーションの現状を話し合ったり、入院中の子どものために作成したプレパレーショングッズ（パンフレットや DVD）を持参したりして情報共有の場とする。そのうえで、プレパレーションが浸透できていない施設はどうすればよいか共に考える。 また、8 月 10 日（土）には、聖泉大学地域連携交流センター公開講座（プラットフォーム協賛事業）として、「多職種協働プレパレーションの実際」のシンポジウムを行う予定である。
現在の進捗状況	1 回目の 6 月 3 日のプレパレーション検討会は、7 施設 17 名の小児科病棟の看護師が参加した。どのような現状であるのか話し合いをし、中々病棟の看護師にプレパレーションが浸透できていないことが分かった。 次回の検討会の時には、使用している物（手作りパンフレットや DVD）を持参してどのように病棟に浸透させていくか話し合う予定。

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 3 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	・彦根・長浜地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内の就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 ・プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標	・社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	5・8・11・17
取組事業 No.	C-3-3 長浜学びのカレッジ
2019 年度の具体的な活動	(概要) 大学等の高等教育機関やまちづくりセンター等市町の諸施設における様々な学習提供機関により、高度な学習要求に応える体系的、専門的な学習機会を提供するとともに、学習機会を生かした社会参加を支援するために長浜学びのカレッジを開設する。この長浜学びのカレッジの目標は、地域資源や地域課題についての知識を習得し、それを基礎としながら、一人一人が主体的に関わっていくための技術や判断力を身につけ、地域活動やボランティア活動の実践に結びつけていく地域学習とする。 ・理論講座を長浜バイオ大学で毎回異なるテーマで 3 回行う。 ・実験・体験講座を長浜北高等学校、長浜北星高等学校、長浜農業高等学校で各校別々のテーマで行う。 ・現地研修として、市内施設でそれぞれ異なったテーマで学ぶ。 7 月から 12 月までの期間に、理論、体験、フィールドワークの講座を合計 9 回実施し、受講生 30 名（昨年度 17 名）を目指す。
現在の進捗状況	7/1～7/18 まで：受講生募集 7/27 (土)：開校式、理論で学ぶ第 1 回講座（大森教授） 10/26 (土)：理論で学ぶ第 2 回講座（古川助教授） 12/ 7 (土)：理論で学ぶ第 3 回講座（小倉教授）、開校式 「実験・体験で学ぶ」及び「現地で学ぶ」については別紙チラシのとおり

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 3（地域人材活性化支援事業）
取組事業概要	・彦根・長浜地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内の就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 ・プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標	・社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	11・17
取組事業 No.	C-3-4 本を紹介してみませんか 2019～POP・本の帯コンクール～
2019 年度の具体的な活動	（概要）長浜市に在住又は通学している中学生、高校生、大学生、専門学校生及び長浜市内在住・在勤の 15 歳～22 歳の方を応募資格者とし、好きな本や感動した本を、絵や言葉で、本屋さんにあるような POP や本の帯のカタチで紹介する。また、10 月中旬ごろに応募作品の審査を行い、最優秀、優秀、佳作等の賞を与える。また、入賞作品に関しては、滋賀文教短期大学図書館及び長浜市立図書館にて展示を行う。 チラシ等作成：作成済み 応募期間：2019 年 7 月 15 日（月）～9 月 22 日（日） 応募受付場所：滋賀文教短期大学、長浜市立図書館 応募資格：以下の①または②に該当する者 ①長浜市に在住または通学している中学生、高校生、大学生、専門学校生 ②長浜市在住・在勤の 15 歳～22 歳の方 審査：10 月中旬頃（滋賀文教短期大学内 教職員にて実施） 発表等：10 月中旬頃 滋賀文教短期大学 HP・長浜市立図書館 HP その他：今年度改革総合支援事業採択以前より計画が進んでいたため、今年度に関しては長浜地域のみとなっているが、次年度以降彦根地域とも調整し、応募の範囲等を広げていくよう調整予定。
現在の進捗状況	チラシ作成済み、ポスター作成済み チラシ配布 ポスター配布 7 月 15 日～9 月 22 日 応募受付中

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 3 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	・彦根・長浜地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内の就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 ・プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標	・社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	3・4・5・8・11・17
取組事業 No.	C-3-5 ナイチンゲール看護研究会・滋賀
2019 年度の具体的な活動	ナイチンゲール看護思想を学び、看護職の質の向上を図るため、ナイチンゲール看護思想を実践に活かすための研究会をプラットフォームで組織し下記の活動を行う。 ・彦根・長浜地域を中心に、現在の臨床の状況と教育における看護思想と実践を対比させながら、理解を深めるために月に一度例会を開催する。 毎月第 3 火曜日 17:30～19:00 ナイチンゲール著「病院覚え書」 聖泉大学本館会議室 参加者 10 名程度 ・彦根・長浜地域を中心に病院や施設に従事する看護職と、専門学校や大学に勤務する看護教員、および大学院や看護学部 of 学生、高校生が参加し、ナイチンゲールの看護思想を伝える講演会を開催する。 毎年 5 月ナイチンゲール看護講演会開催 本館会議室 参加者 30 名～50 名程度 ・看護実践の中で不安や疑問に感じている看護職者がナイチンゲールの看護思想(理論)を学び、実践につなげていくためにそれぞれの学びをまとめる。 ナイチンゲール看護思想「病院覚え書」を読み解く 2020 年 3 月発刊予定
現在の進捗状況	・2019 年度 例会：4 月 16 日 (参加者 14 名) 6 月 18 日 (参加者 9 名) ・2019 年度 講演会 5 月 18 日 13:30～15:30 (参加者 30 名) テーマ「ナイチンゲールからの贈り物を受け止め、受け継ぐー院内教育と大学教育の立場からー」講師：小野千秋、樋口京子 ・執筆活動 ナイチンゲール看護思想「病院覚え書」を読み解く 2020 年 3 月発刊予定 (現在、原稿依頼済み、取りまとめている段階である)

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 3（地域人材活性化支援事業）
取組事業概要	・彦根・長浜地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内の就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 ・プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標	・社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	8・11・17
取組事業 No.	C-3-6 キャリアアップ講座（潜在保育士・保育補助者対象）
2019 年度の具体的な活動	待機児童問題とともに保育士不足も深刻な問題となっている。 資格はあるけれど保育の現場では働いていない方、保育所等を離職したが再就職をしようと考えている方々が数多くいる。 そこで保育士不足解消のため、保育士として復帰しやすいように、潜在保育士就業支援研修会を行う。 研修会では、潜在保育士の方々が抱く不安を取り除いて保育士として復帰していけるようにする。例えば遊びの重要性、子どものかかわり方など具体的に講義する。 また、免許はないが保育助手や、保育ボランティア活動に関心がある方にも研修に来ていただいて保育の基本的な知識や技術を学んでもらう。 1 月 18 日（土）9:30～12:00 ・発達段階と発達に応じた子どもとのかかわり方 ・子どもの安全と環境づくり 1 月 25 日（土）9:30～12:00 ・気になる子どもへのかかわり方 ・遊びの重要性（手作り玩具の製作と実践）
現在の進捗状況	・具体的な講義内容の検討と講師について検討中 ・パンフレットの作成について検討中

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 4（共同 FD/SD 事業）
取組事業概要	彦根・長浜地域の共同教育事業の確立にあたり、PF 参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会（共通 FD/SD）を設ける。
活動指標	共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-4-1 FD 研修会（よい授業の要件について考える）
2019 年度の具体的な活動	PF 参加校の教育の質向上を図るため、大学入学後の学習環境に早期適応させ、教育成果を高める教育方法について考える研修会を以下の通り実施します。講師の先生の研究成果や高校教員をされた経験から、現代高校生気質を踏まえた講義の工夫についての解説後、講義手法の改善について教員同士のワークショップを通じて実践的な改善方法を考える FD 活動となります。 【テーマ】「互惠的関係の構築について学ぶ」 【日時】2019 年 8 月 26 日 13 時～14 時 30 分 【講師】東海学園大学 スポーツ健康科学部 准教授 水野 正朗 氏 【主な内容】 ・ 高大接続において大学が求められるもの（現代高校生の気質）。 ・ チーム・ビルディングの重要性 ・ 教材研究の必要性（コンテンツ×学習者×教育方法×教師） ・ 協同学習を成立させるための基本条件の理解 ・ 互惠的関係（相互協力関係）を構築するためのいくつかの工夫 ※ 参加者の意見交換のためにワークショップ形式で実施します。
現在の進捗状況	FD テーマ/形式等：「互惠的関係の構築を学ぶ」/ワークショップ形式 参加者募集広報：7 月下旬 参加者締切：8 月 9 日 開催日：8 月 26 日 13 時～14 時半 長浜バイオ大学にて開催

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 4（共同 FD/SD 事業）
取組事業概要	彦根・長浜地域の共同教育事業の確立にあたり、PF 参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会（共通 FD/SD）を設ける。
活動指標	共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	3・4・8・9
取組事業 No.	C-4-2 共同 FD 研修
2019 年度の 具体的な活動	今年度 聖泉大学で実施予定である下記の FD/SD 研修会について、プラットフォームに公開し、プラットフォーム事業として実施する。 演題：「現象学的に人間を理解する」 講師：大阪大学大学院 教授 村上靖彦氏 日時：2019 年 8 月 8 日（木）13:00～15:00 場所：聖泉大学 455 教室
現在の 進捗状況	・全学 FD 委員会（6/25）において、プラットフォームに公開し、同事業として実施することが決定 ・彦根・長浜地域連携協議会（6/28）において、別紙チラシを各機関に配布 ・申し込み〆切：各団体（機関）で取りまとめのうえ 7 月 31 日（水）まで

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 4（共同 FD/SD 事業）
取組事業概要	彦根・長浜地域の共同教育事業の確立にあたり、P F 参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会（共通 FD/SD）を設ける。
活動指標	共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-4-3 SD 研修会（大学と地域との関わりについて）
2019 年度の 具体的な活動	少子化、人口減少等、特に地方が直面する課題は多い。その課題において地方を拠点とする大学が地域と共にどのように地方の魅力を発信して行くのか、また大学の性質上他の教育機関よりも地域における窓口を広げる事ができることにより。どのように地域と関わりを持つことが出来るのか、そのためには大学の組織をどのような形に持っていくことが必要であるか、教育と大学の組織の観点から考える SD 活動を計画している。 【テーマ】「大学と地域との関わり方について～西南まちづくりラボを例に～」 【日 時】2019 年 9 月 18 日（水）13:30～15:00 【講 師】西南学院大学 教授 小出 秀雄 先生 【主な内容】 ・大学と地域との連携（導入・先駆例） ・リアルとネットを組み合わせた連携「浜西南大学まち」（2015 年度後期～2018 年度） ・チームで取り組む大学・地域連携「西南まちづくりラボ」（2019 年度） ・学生が得ること、地域が得ること ・地方大学が地域と関わる際の課題
現在の 進捗状況	参加者募集広報：8 月 9 日（金） 参加者締切：9 月 11 日（水） 開催日：9 月 18 日（水）13:30～15:00 滋賀文教短期大学内にて開催

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成事業
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 4（共同 FD/SD 事業）
取組事業概要	彦根・長浜地域の共同教育事業の確立にあたり、PF 参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会（共通 FD/SD）を設ける。
活動指標	共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-4-4 SDGs シンポジウム
2019 年度の具体的な活動	彦根・長浜地域連携協議会の事業推進をサポートするため、SDGs やこれを利用した社会の活性化などについて学ぶ機会を設ける。 【テーマ】「SDGs を利用した地域の活性化」 【日 時】2019 年 6 月 7 日（金）13:30-15:00 【講 師】今村 忠彦 JPSMS Principal Assessors 環境省登録 環境カウンセラー、CESA プログラム環境防人マスター、NPO 法人 持続可能管理協会 びわこ理事長、NPO 法人 滋賀環境カウンセラー協会理事 【主なテーマ】 ・SDGS の活用事例 ・大学と地域との関わり 【開催場所】 長浜バイオ大学・中講義室 6
現在の進捗状況	実施済み 参加者募集広報：5 月 27 日（月） 参加者締切：6 月 5 日（水） 参加人数：61 名

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成事業
課題	今後の彦根・長浜地域を担う人材の確保
達成目標	地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立
取組事業名	取組 4（共同 FD/SD 事業）
取組事業概要	彦根・長浜地域の共同教育事業の確立にあたり、PF 参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会（共通 FD/SD）を設ける。
活動指標	共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-4-5 初等教育懇話会
2019 年度の具体的な活動	地域の初等教育における現状と様々な取り組み、課題などについて情報を共有し、プラットフォームを形成する連携機関がどのようにして地域の初等教育に関与し、地域の教育力向上に協力できるかについて議論する教職員等の参加型の懇話会を設ける。 【テーマ】「初等教育懇話会」 【日 時】2019 年 7 月 26 日（金）11:00-12:00 【講 師】織田 恭淳 滋賀県内の中学校教諭を経て滋賀県総合教育センター、長浜市教育委員会、滋賀県教育委員会。長浜市北中学校校長。現在、長浜青少年センター所長。 【主なテーマ】 ・学力格差、生徒指導、人材育成、学校経営、進路状況 ・彦根・長浜地域連携協議会との連携 【開催場所】 長浜バイオ大学・セミナー室 6
現在の進捗状況	実施済み （講話と座談会の双方向形式） 参加者締切：7 月 25 日（木） 参加人数：18 名

(4) 2019 年度 D. 事業管理等

WG 名称	D. 事業管理
達成目標	協議会で取り組む事業の進捗及び成果等の情報発信を定期的に行う。
取組事業名	広報活動
取組事業概要	彦根・長浜地域連携協議会が行うすべての取組事業について、取組事業内容や取組成果を広く情報発信するために、協議会 HP を開設し、定期的な情報発信を行い、彦根・長浜地域プラットフォーム事業の成果物等を情報提供できる基盤を整備する。
取組事業 No.	D-1-1 協議会ホームページの作成
2019 年度の具体的な活動	協議会 HP を開設し、彦根・長浜地域連携協議会の概要、中長期計画の公表、中長期計画に基づく各 WG が取り組む具体的な事業計画、進捗状況、取組成果を HP に記載し、地域の発展へ向けた取組を通して彦根・長浜地域の魅力と活気ある地域社会を創出に向けた情報発信を行う。
現在の進捗状況	8 月 1 日（木）第 3 回協議会にて PF 事業ホームページ開設の承認へ向け、委託業者に依頼中。 業者との打ち合わせ：7 月 12 日、必要に応じて数回実施 HP 記載項目（予定）：地域連携 PF について、事業計画・実績・評価、取組事業スケジュール、その他 情報更新頻度：2 か月または 3 か月に 1 度の更新予定

WG 名称	D. 事業管理
達成目標	彦根・長浜地域連携協議会で実施した事業の成果をまとめ、情報発信を通じて地域の活性化に役立てる
取組事業名	成果報告会の企画・運営事業
取組事業概要	彦根・長浜地域連携プラットフォーム事業で取り組んだ事業について、ワーキングごとに取組成果を取りまとめ、地域課題の解決のきっかけとなる取組状況を広く情報発信をすることを目的に、成果報告会を開催する。成果報告会実施後、成果報告書を作成し、協議会 HP を通じて情報発信を行う。
取組事業 No.	D-1-2 成果報告会
2019 年度の具体的な活動	中長期計画に従い実施した 2019 年度の事業取組について、ワーキンググループごとに取組状況及び取組成果について取りまとめを行う。2020 年 2 月に開催する成果報告会において、ワーキンググループごとに成果報告を行うとともに大学・産業界・自治体から批評をしてもらい、翌年度以降の改善につなげる取組を行う。 成果報告会後、成果報告書の作成を行う。
現在の進捗状況	2019 年 9 月末日 ワーキンググループの事業進捗状況（事業実施結果）の取りまとめ①と自己評価（来年度申請のため） 2019 年 12 月末日 ワーキンググループの事業進捗状況（事業実施結果）の取りまとめ② 2019 年 12 月中旬及び 2020 年 1 月下旬 成果報告会の準備 2020 年 2 月下旬 成果報告会の開催（長浜バイオ大学） 成果報告書の作成と公表（2019 年度内）

WG 名称	協議会
取組事業名	彦根・長浜地域連携協議会運営
取組事業概要	2018 年度に地域課題を解決するために産官学が一体となり取り組む事業として彦根・長浜地域連携協議会が締結された。彦根・長浜地域連携協議会が立案した中長期計画で取り組むとした、各事業の円滑な事業運営を支援するために、協議会を構成する連携機関の代表が定期的集まり、地域連携協議会が取り組む事業のスムーズな運営に必要と思われることについて協議を行う。
取組事業 No.	E-1-2 連携協議会の開催
2019 年度の具体的な活動	2018 年度に締結された彦根・長浜地域連携協議会が中長期計画で実施する取組事業の円滑な事業運営を支援するために、協議会を構成する連携機関の代表が定期的集まり、各年度の事業計画の立案・予算案の立案、その他地域連携協議会に必要と思われることについての審議・承認を行う。
現在の進捗状況	彦根・長浜地域連携協議会開催状況 2019 年 5 月 14 日 第 1 回 彦根・長浜地域連携協議会 2019 年 6 月 28 日 第 2 回 彦根・長浜地域連携協議会 今後の開催予定 2019 年 8 月 1 日 第 3 回 彦根・長浜地域連携協議会 2019 年 9 月下旬 第 4 回 彦根・長浜地域連携協議会

WG 名称	協議会
取組事業名	事業評価事業
取組事業概要	中長期計画に基づいて実施した取組事業について、成果報告会で取りまとめたワーキングごとの自己評価に対して、事業成果への評価、次年度の取組に向けた助言をいただくことを目的に外部評価委員(3名)による外部評価委員会を実施する。外部評価委員会の提言を参考に、次年度の事業計画の改善を検討する。
取組事業 No.	E-1-4 外部評価委員会
2019 年度の 具体的な活動	2019 年度に実施した事業について、成果報告会に向けて各ワーキングが事業成果を自己評価したのち、外部評価委員 3 名により事業成果への評価、次年度に向けた改善提案を行う外部評価委員会を実施する。 なお、外部評価委員は以下の 3 名に就任していただいている。 ・仁連 孝昭 氏(環びわ湖大学・地域コンソーシアム顧問) ・田中 紹貴 氏(滋賀銀行 営業統括部地域振興室長) ・北川 貢造 氏(長浜市 元教育長)
現在の 進捗状況	外部評価委員の選出：第 2 回彦根・長浜地域連携協議会(6 月 28 日) 外部評価委員への成果報告会参加依頼：2020 年 1 月(予定) 外部評価委員会開催：2020 年 3 月(予定)

(5) 2019 年度 協賛事業（来年度以降、取組事業として実施する可能性のある事業等）

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化
取組事業名	協賛事業（取組 1（産官学連携））
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・9
取組事業 No.	F-1-1 地域資源を生かした 6 次産業化促進事業
2019 年度の具体的な活動	長浜市の「小谷城スマートインターチェンジ周辺 6 次産業化拠点整備事業」で開設された栽培実験農場において、尾上菜や伊吹大根といった地域伝承野菜のブランド化を推進する取組みを実施している。具体的には、長浜バイオ大学での研究成果（尾上菜の優良系統株の確立や F1 採種技術の確立）を用いて、長浜農業高等学校と連携して試験栽培を実施している。
現在の進捗状況	2019 年 7 月 7 日 長浜バイオ大学において「小谷城スマート IC 周辺で取り組む 6 次産業化セミナー」を開催し、本事業における事例発表を行った。本セミナーには、関係者および市民合わせて 140 名が参加。 今後の具体的な活動は 8 月中旬に開催する関係者会議で決定する。 なお、滋賀調理短期大学校にて 11 月 20 日に開催される料理作品展示会において、各生徒から尾上菜を使った料理を発表いただく。 また、11 月 23 日に開催される「長浜学びのカレッジ 現地で学ぶ第 3 回講座」において、湖北町食事文化研究会の肥田文子氏に尾上菜の漬物作り講習を行っていただく。

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	彦根・長浜地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化
取組事業名	協賛事業（取組 2（インターンシップ、採用支援事業））
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上（延べ数）、参加学生 100 名以上（延べ数）を実現する。
対応 SDGs 番号	4・8・9・11
取組事業 No.	F-1-2 ローカルインターンキャンプ
2019 年度の具体的な活動	湖北の企業と滋賀県内外の学生との交流の場をつくり、湖北の企業での働き方、文化や人々に触れることを通して、学生の就活時に湖北企業が選択肢一つとなることを目的としている。また、湖北企業が学生を受け入れる体制を整え、採用基盤を強化することによる将来的な人材確保を目的とする。 大学 2～4 年生を対象とした宿泊型インターンシップ。20 名程度が参加し、4 泊 5 日で合宿所に泊まり込み、2～3 人 1 チームで同一企業に 3 日間通う。就労体験だけでなく、企業の採用戦略を考え、最終日にプラン提案するなどテーマ・課題を通して企業理解を深めるカリキュラム。広報周知を兼ねたプレイベントとして、「滋賀、東京で地元での就職を考える」をテーマにしたセミナーを 6～7 月に開催。
現在の進捗状況	5 月 22 日 参加企業募集説明会 6 月 15 日 プレイベント「Now on LOCAL!」滋賀 チカ守山開催 6 月 29 日 プレイベント「Now on LOCAL!」東京 TIP*S 開催 7 月 12 日 参加企業説明会 8 月 7 日 参加学生 WEB 説明会 9 月 9 日～13 日 ローカルインターンキャンプ（4 泊 5 日）開催

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	協賛事業（取組 1（生涯学習拠点整備事業））
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座の参加者を最終年度までに、2018 年度比で 100 名以上増加させる（延べ人数）
対応 SDGs 番号	3・4・11・15
取組事業 No.	F-1-3 春期公開講座
2019 年度の 具体的な活動	テーマは「人間学」、全 4 回（各学部）の講座、対象は一般 2019 年度実績 5 月 18 日（土） 「最近話題の『ジャポニスム』とファッション史」112 名 講師：人間文化学部 生活デザイン学科 准教授 横田 尚美 5 月 25 日（土） 「子どもの目線で医療を考える」119 名 講師：人間看護学部 人間看護学科 教授 古株 ひろみ 6 月 1 日（土） 「かたちと強さと壊れ方」100 名 講師：工学部 機械システム工学科 教授 田邊 裕貴 6 月 8 日（土）、29 日（土） 「普通種と希少種：違いはどこにあるのか？」112 名 講師：環境科学部 環境生態学科 教授 西田 隆義 2020 年度実施に向けた予定 1 月講師・テーマ内定、2 月下旬チラシ作成、3 月上旬チラシ納品、広報開始
現在の 進捗状況	2019 年度実施終了。参加者 443 名

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	協賛事業（取組 3（国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業））
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	5・8
取組事業 No.	F-1-4 長浜曳山まつり
2019 年度の具体的な活動	曳き手ボランティアとして学生・教職員が参加。
現在の進捗状況	2019 年度は実施済み。4 月 14, 15 日に延べ 47 名の学生が曳き手として参加。 2020 年度は 4 月 15 日に参加の予定。

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	協賛事業（取組 3（国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業））
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	4・17
取組事業 No.	F-1-5 中国語講座
2019 年度の具体的な活動	彦根市日中友好協会と聖泉大学の共催交流事業。2018 年度よりスタート。2019 年度は、年間 5 回（期）実施予定。 語学や文化習慣の学習を通じて、地域住民と地域に住む留学生や外国人住民との交流、相互理解を促進する。 初心者のための中国語基礎講座（1 期・全 4 回） 年間 5 期あり 中級者のための中国語強化講座（1 期・全 4 回） 年間 5 期あり 講師：唐楽寧（聖泉大学人間学部教授） 受講料：1,000 円（日中友好協会の交流事業代） 定員：20 名 土曜日の午前中に開催
現在の進捗状況	4 期（4 月） 済 5 期（5 月～6 月） 済 6 期（7 月～8 月） 募集中 7 期（10 月～11 月） 8 期（12 月～1 月）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	協賛事業（取組 3（国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業））
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	F-1-6 町家プロジェクト
2019 年度の具体的な活動	地域住民向けのイベント開催（七夕・クリスマス等）
現在の進捗状況	7 月 7 日本学の町家キャンパスにて七夕イベントを実施した。 10 月に長浜市立湯田小学校で科学教室を行う。 その他、町家キャンパスで地域住民向けイベントを企画予定。

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 1 割増加させる。
取組事業名	協賛事業（取組 3（国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業））
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs 番号	6・12
取組事業 No.	F-1-7 クラフト体験（琵琶湖清掃活動による廃材、建築端材を利用）
2019 年度の具体的な活動	琵琶湖清掃活動廃材や建築木材の端材を再利用したクラフト体験
現在の進捗状況	11 月のシーグラスクラフト体験イベントで利用するシーグラス収集も兼ねて琵琶湖清掃を 6 月から開始。今後は 1 回程度 10 名～20 名の学生で清掃活動を実施予定。複数回イベントを開催の有無はシーグラスの収集数によって変動します。

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	彦根・長浜地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年度比で 1 割増加させる。
取組事業名	協賛事業（取組 2（地域住民に向けた健康増進支援事業））
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標	地域住民向け健康支援イベントを最終年度までに 5 件以上行う
対応 SDGs	3・11
取組事業 No.	F-1-8 いきいき健康フェスティバル
2019 年度の具体的な活動	「心と体の健康づくり」をテーマに、子供から大人まで幅広い来場者の方に、自分の健康について関心を持ち、思いやりの心をはぐくみ、健やかで心豊かな生活について考える機会となる参加型イベントを開催する。 「第 10 回健康フェスティバル 2019」の開催 日 時：2019 年 5 月 19 日（日）10:00-16:00 場 所：長浜バイオ大学 テーマ：「～幸せは心と体の健康から～」 内 容：・心と体の講演会 ・こどものサイエンス ・0 次カフェ ・体のひろば ・ちびっこひろばなど
現在の進捗状況	2019 年度実施済 参加人数：約 10,000 人

（６）2020 年度以降の事業活動

2020 年度以降の事業活動については、2019 年度の事業活動に対する外部評価委員会の評価を踏まえ、必要に応じて事業計画や数値目標等の改善を検討していく。2020 年度からの具体的な事業計画は、「2020 年度 びわ湖東北部地域連携協議会 事業計画」（別掲）といたった年度単位の形式で公表していくこととする。

5. 中長期計画のロードマップ

本プラットフォーム事業の円滑な実施のため、以下の様なロードマップで中長期計画の策定を行う。なお、社会的状況や事業全体の進捗状況、本プラットフォームに参画する機関の追加状況や協議により、日時を変更することがあり得る。

① 2019年度 彦根・長浜地域連携プラットフォーム事業年間計画

年月	項目
2019年4月	- 彦根・長浜地域連携協議会：第1回リーダー校会議（4/11） - 彦根・長浜地域連携協議会：第1回事務局会議（4/17） - 彦根・長浜地域連携協議会：第2回リーダー校会議（4/25）
2019年5月	- 第1回彦根・長浜地域連携協議会（5/14） 1) 協議会長の選任 2) ワーキンググループ構成員の選任 3) 会計処理規程、実施規程、公印取扱規程の承認 4) KGI、KPI の決定 - 彦根・長浜地域連携協議会：第3回リーダー校会議（5/31）
2019年6月	- 彦根・長浜地域連携協議会：第2回事務局会議（6/25） - 第2回彦根・長浜地域連携協議会（6/28） 1) 事業計画・予算計画の承認 2) 外部評価委員の選定
2019年7月	- 彦根・長浜地域連携協議会：第4回リーダー校会議（7/22） - 彦根・長浜地域連携協議会：第3回事務局会議（7/29）
2019年8月	- 第3回彦根・長浜地域連携協議会（8/1） 1) 事業概要及び対応 SDGs の承認 2) 中長期計画（最終版）の承認 3) 個人情報保護規程の承認 4) 監査規程の承認 5) 外部評価委員の決定 6) 協議会ホームページ（予算変更）の承認 2019年度 中長期計画の公表（8月下旬） - 彦根・長浜地域連携協議会：第4回事務局会議（8月下旬） - 彦根・長浜地域連携協議会：第5回リーダー校会議（8/27） - タイプ3（発展型）申請準備
2019年9月	- 彦根・長浜地域連携協議会：第5回事務局会議（9月下旬） - 第4回彦根・長浜地域連携協議会（9/26） 1) タイプ3（発展型）申請案決定 2) 各WG事業進捗状況確認①（事業評価）
2019年10月	タイプ3（発展型）申請
2019年12月	- 第5回彦根・長浜地域連携協議会（12月中旬） 1) 各WG事業進捗状況確認②（事業評価）
2020年1月	成果報告会の準備
2020年2月	成果報告会の開催
2020年3月	外部評価委員会の開催

	・成果報告書作成 ・第6回彦根・長浜地域連携協議会（3月中旬） 1) タイプ3（発展型）採択決定（予定） 2) 2020年度タイプ3（発展型）組織体制
--	--

②本事業の6か年計画

本プラットフォーム事業においては、中長期計画を確定した後、6か年にわたる具体的な実施を計画している。2020年度以降の具体的なロードマップは以下のとおりである。

年度	項目
2020年度	・各事業の遂行 ・連携機関との協議・調整 ・年間評価
2021年度	・各事業の遂行 ・連携機関との協議・調整 ・年間評価
2022年度	・数値目標及び各事業の達成状況の中間確認 ・外部評価委員会による中長期計画の中間評価 ・各事業の進捗状況についてステークホルダーへの報告と情報収集
2023年度	・各事業の遂行 ・連携機関との協議・調整 ・年間評価
2024年度	・中長期計画の自己点検評価・外部評価 ・KPIの達成状況の確認 ・次期へ向けた事業展開の検討